

学科・年次	柔道整復科 1年次
科目名	情報科学
担当者	新井 隆裕 玉置 大輔
単位数（時間数）	2 単位（34 時間）
学習方法	講義（演習）
教科書・参考書	インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版／実教出版株式会社 30 時間でマスター Word&Excel2016（Windows10 対応）／実教出版株式会社 30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2016（Windows10 対応）／実教出版株式会社 SNS における個人情報取り扱いガイドブック／一般社団法人日本看護学校協議会共済会

授業概要と目的
<p>情報科学の初学者にも理解できるように、具体例を用いながら情報科学の基礎知識について概説する。現在、情報通信、情報メディア技術の発展に伴いコンピュータは身の回りのさまざまなところに組み込まれ、利用されている。このコンピュータの原理や歴史、インターネットの仕組み、コンピュータセキュリティといった情報に関する科学・技術的事項の習得を目指す。また現在医療は ICT 化が進み、保健・医療・福祉のさまざまな場所で利用されている。そのため、コンピュータの基本的な操作とリテラシーについて基本の知識を学ぶ。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	情報の役割とコンピュータを利用した情報活用の重要性について理解する。 情報化社会に参画するために個人が身につけるべき情報モラルについて理解する。	情報の役割に関心を持ち、具体例を挙げて考えることができる。 情報化が社会に与える影響に関心を持ち、モラルなどに基づいた行動ができる。 また、問題点について説明ができる。	新井 隆裕
2	前期	情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。	情報技術におけるセキュリティ管理について興味を持ち、対策などを考察できる。また、個人が身につけるべき方策や様々な問題点などについて理解し説明できる。	新井 隆裕
3	前期	電子メールの利用方法について理解する。	キーボードでのタイピングができる。 メールサーバの仕組みを理解し設定ができる。 電子メールのマナーなどについて興味を持ち、適切に利用できる。	新井 隆裕

			また危険性などについて理解しメールの送信ができる。	
4	前期	プレゼンテーションの重要性や基礎的な知識と技術について理解する。	効果的なプレゼンテーションの仕方について興味を持ち、プレゼンテーションの適切な実施や評価ができる。また、プレゼンテーションの準備などの流れの概要を説明できる。	新井 隆裕
5	前期	プレゼンテーション資料を構成するスライドを作成するために必要な基本的な操作方法を理解する。	文字の入力ができる。 スライドのデザイン設定ができる。 新しいスライドが作成できる。	新井 隆裕
6	前期		イラストの挿入ができる。 オブジェクトの操作ができる。 スライドショーを実行できる。	新井 隆裕
7	前期	プレゼンテーション資料をより印象深くするため資料の完成度を高めるために必要な応用的な操作方法を理解する。	配色の設定ができる。 テキストの書式設定ができる。	玉置 大輔
8	前期		グラフや図形の挿入ができる。	玉置 大輔
9	前期		アニメーションの設定ができる。 発表原稿を入力することができる。	玉置 大輔
10	前期	スライド以外の視覚資料に関する知識と技術について理解する。	プレゼンテーションソフトウェアの多様な機能などを理解して活用し、スライド以外の視覚資料を作成することができる。また他者に伝達するのに必要な項目を考察できる。目的や対象を明確にした表現やデザインの工夫を行える。レイアウト、文字の表現、図やイラスト、写真による表現を工夫することができる。	玉置 大輔
11	前期	プレゼンテーションを実施するために必要な基本的な事柄を通して、いかに聞き手に伝えるかを理解する。	表現力を理解して伝え方を工夫することができる。 パソコンやプロジェクター等機器の操作方法を理解し活用することができる。	玉置 大輔
12	前期	プレゼンテーションのための視覚資料を作成する。 プレゼンテーションの意義を理解し準備を進めることができる。目的に応じた資料作成などを考察できる。分かりやすい視覚資料を作成でき、プレゼンテ	一次データと二次データの違いについて理解して活用できる。	玉置 大輔

		ーションソフトウェアの特徴などを理解して活用できる。		
13	前期	プレゼンテーションソフトウェアを活用した効果的なプレゼンテーション技法を実践する。	プレゼンテーションの流れを考え発表時における工夫ができています。興味を持って他人のプレゼンテーションを聴け、プレゼンテーションを評価できる。	玉置 大輔
14	前期			玉置 大輔
15	前期			玉置 大輔
16	前期	自身が行ったプレゼンテーションを客観的に評価し改善を考える。	自分自身を客観的に観察することができる。また適切な改善策や評価の視点をあげて説明できる。	玉置 大輔
17	前期	期末考査	学習した内容を理解し説明できる。	玉置 大輔
成績評価方法		試験と演習点を平均し評価点とする。		
準備学習など		講義サイト http://www.tokai-med.ac.jp/it/ を細目に確認して下さい。 欠席した場合、当日に行った演習内容を終えて次回の講義に出席してください。		

学科・年次	Judo Therapy ・1年生
科目名	English
担当者	William John Herlofsky
単位数（時間数）	1 単位（17 時間）
学習方法	Students will improve their confidence and comprehension using English reading, writing and speaking skills.
教科書・参考書	Practical English through the Study of the Human Body Omsa

授業概要と目的
The purpose of this class is to introduce vocabulary and useful phrases about the human body and ways to communicate and help patients with their symptoms and injuries.

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	Introductions; course guide; pronunciation tips	Preview of course content, beginning communication with patients	William John Herlofsky
2	前期	Relevant vocabulary and useful phrases; Human Body Systems	Beginning dialogues with patients and study of Human Body Systems	William John Herlofsky
3	前期	Human Body Systems	Study of human body parts and systems	William John Herlofsky
4	前期	Human Body Systems	Human body systems continued	William John Herlofsky
5	前期	Human Body Systems; Immune System/symptoms/injuries. Useful phrases for patient dialogues	Vocabulary and phrases for Doctor/Patient dialogues with partner	William John Herlofsky

6	前期	Doctor/Patient dialogue presentations	Students speak dialogues written with partner	William John Herlofsky
7	前期	「 」 Doctor/Patient dialogues presentations continued	「 」 Final presentations	William John Herlofsky
8	前期	Course summary/review	Review of course main points	William John Herlofsky
9	前期	TEST	Final written test	William John Herlofsky

績評価方法	Participation/presentation 50% Final written test 50%
準備学習など	Students will need a notebook, textbook and E-J –J-T dictionary
留意事項	Writing notes will be very important and doing your best to participate.

学科・年次	柔道整復科 1年次
科目名	生物学
担当者	加藤裕美
単位数（時間数）	1単位（17時間）
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	プリント

授業概要と目的
<p>柔道整復師について、現代の様々な医療機器を正しく活用して、整復医療とリハビリの相乗効果を理解するためには科学的な根拠に基づいた選択や判断が必要となる。本講義では、その基礎となるヒトという生物の成り立ち、構造、働きを理解することを目指す。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	柔道整復師が必要とする生物学的基礎を理解する。	柔道整復師として必要である、生物の基本構造の細胞の働きについて理解し、真核細胞と原核細胞の違いについて述べることができる。	加藤裕美
2	前期	柔道整復師が必要とする生物の代謝について理解する。	代謝について理解し、同化・異化について働きを述べることができる。	加藤裕美
3	前期	柔道整復師が必要とする細胞の遺伝情報について理解する。	遺伝情報の基礎である DNA、RNA、遺伝子の転写、翻訳蛋白質合成について述べるができる。	加藤裕美
4	前期	柔道整復師が必要とする生殖と減数分裂について理解することができる。	減数分裂、細胞周期について理解し、生物と動物における相違について述べることができる。	加藤裕美
5	前期	柔道整復師が必要とする体液成分について理解することができる。	人における循環（大・小）、血液成分と各々の働きについて述べることができる。	加藤裕美
6	前期	柔道整復師が必要とする内臓、諸臓器について理解することができる。	心臓、肝臓、腎臓の働き、構造について述べることができる。	加藤裕美

7	前期	柔道整復師が必要とする恒常性の維持について理解することができる。	神経系、内分泌系、免疫の働き、血糖値の調節・体温調節について述べるができる。	加藤裕美
8	前期	柔道整復師が必要とする遺伝形質、遺伝疾患について理解することができる。	伴性遺伝、常染色体優性遺伝・常染色体劣性遺伝、血液型について述べるができる。	加藤裕美
9	前期	期末テスト まとめ		加藤裕美
評価方法		試験による成績により評価する。		
準備学習など		毎回プリントを配布する。 内容は高校生物程度の簡単なものである。		

学科・年次	柔道整復科 1年次
科目名	心理学
担当者	竹内高行
単位数（時間数）	1単位（17時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	各回毎に教材・資料を配布する。

授業概要と目的
<p>心理学とは、人間の行動および心の動きをその環境との関係において理解しようとする学問である。また、スポーツ心理学とは、スポーツにおける心の面についての問題を解決することを目指した学問である。本講義では、心理学およびスポーツ心理学の基礎的知見を習得し、スポーツや運動で起こる心の動きの理解することを目指す。また、知識を深めるだけでなく、自分自身の心理的課題を明らかにし、実生活やスポーツ、運動活動で活かせるように授業を実施する。</p> <p>また、健康な生活を送るために必要な心理面の基礎的な知識、対処法を学び、さらにスポーツ場面においても応用する方法を学習する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「オリエンテーション」 心理学／スポーツ心理学で学ぶ内容を理解する。	過去の自分を振り返って、心の面が身体行動やスポーツ活動に影響した事柄を説明できる。	竹内
2	後期	「エクササイズの心理的効果」 エクササイズ・身体活動・スポーツ活動がどのような影響を及ぼしているかを理解する。	1. 過去の自分を振り返って、身体行動やスポーツ活動が心の面に影響した事柄を説明できる。 2. より良く生きていくうえで、どのような運動をどの程度実施することが望ましいか説明できる。	竹内
3	後期	「動機づけ」 エクササイズやスポーツへの参加・継続・離脱という事柄について動機づけの理論から理解する。	1. 有能感や自己効力感について、人間の本質的な欲求という面から動機づけの理論について説明できる。 2. どのようにすると運動が継続できるかについて説明できる	竹内
4	後期	「目標設定」 動機づけの理論に基づいた目標	1. 目標達成理論について説明できる。	竹内

		達成理論について理解する。	2. より良く生きていくうえで、適切な目標設定を行う方法について説明することができる。	
5	後期	「発達心理（発育と発達）」 発達段階に応じた心理的な特徴や、スポーツの指導法について理解する。	1. 発達段階別の心理的特徴について説明できる。 2. スポーツによって養われる態度や資質、性格とスポーツの関連などについて説明できる。	竹内
6	後期	「ストレスマネジメント」 ストレスから健康と病気について理解する。	1. ストレスの原因となるストレスラーやメカニズムについて説明できる。 2. ストレスの対処法について説明できる。	竹内
7	後期	「社会心理（社会的認知・行動、チームワークおよびリーダーシップ）」 行動変容を促すカウンセリング理論について理解する。	1. 理解と他者理解ができ、言葉にならないメッセージや言葉の裏側にある本質について説明できる。 2. カウンセリングにおける基本的な姿勢について説明できる。	竹内
8	後期	「スポーツ競技における心理（ピークパフォーマンス、スポーツ障害と回復における心理）」 選手と指導者のメンタルマネジメントについて理解する。	1. 選手や指導者の抱える心理的な問題と心理的スキルについて説明できる。 2. メンタルトレーニング、プレッシャー、あがり、スランプの対処法について説明できる。	竹内
9	後期	「これまでのまとめ」 定期試験	試験と解説を行い心理学／スポーツ心理学について総括説明する。	竹内
成績評価方法		定期試験（60%）、小レポート（40%）から総合的に評価する。		
準備学習など		日頃より、スポーツ関連のニュースや新聞記事に目を受け、スポーツ心理学の観点から考えてみる。		

学科・年次	柔道整復科・1 学年
科目名	教養学
担当者	柴田 龍希
単位数（時間数）	1 単位（17 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	霜栄著『現代文読解力の開発講座』駿台文庫, 2011 (参考書：岩間輝生・太田瑞穂・坂口浩一・関口隆一編『ちくま評論入門』筑摩書房,2015)

授業概要と目的
論説文の読解に必要な視点を獲得し、文章から筆者の主張を適切に読み取る方法を身につける。さらに、読解の知識を作文に応用し、自分の主張が明確になる文章を書けるようにする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	オリエンテーション 「自明性の罟」からの解放	この授業で身につける読解方法について理解する。	柴田 龍希
2	前期	対比 練習問題	対比を意識して文章を読めるようになる。	柴田 龍希
3	前期	抽象と具体 練習問題	抽象と具体を意識して文章を読めるようになる。	柴田 龍希
4	前期	添加・並列 練習問題	添加・並列を意識して文章を読めるようになる。	柴田 龍希
5	前期	比喩 練習問題	比喩を意識して文章を読めるようになる。	柴田 龍希
6	前期	まとめ 練習問題	今まで学んだ文章読解の要素を確認し、作文に応用できるようにする。	柴田 龍希
7	前期	作文① 練習問題	自分の主張が明確になるように文章を書く。	柴田 龍希
8	前期	作文② 練習問題	作文のセルフチェックと他の人の作文を読み、作文の技能を身につける	柴田 龍希
9	前期	まとめ、期末テスト	学習成果を示す。	柴田 龍希
成績評価方法	100 点満点(作文 30 点+テスト 70 点)			
準備学習など	なし。			
留意事項	なし。			

学科・年次	柔道整復科・1年
科目名	カウンセリング基礎
担当者	竹内 高行
単位数（時間数）	2単位(34時間 17コマ)
学習方法	講義・座学
教科書・参考書	プリント配布

授業概要と目的
心理学とは、人間の行動および心の動きをその環境との関係において理解しようとする学問である。また医療現場においても対人関係を構築することは必要であり、相手の感情を理解することで信頼を得ることができる。この講義において人とのコミュニケーションスキルやカウンセリングについての技術を修得する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期	オリエンテーション 心理学とは何か理解する。	心と体の学問であり、科学的な手法によって研究される。そのアプローチとしては、行動主義のように行動や認知を客観的に観察しようとするものと、一方で、主観的な内面的な経験を理論的な基礎におくものことがあることを把握し、修得する。	竹内 高行
2	後 期	臨床心理学について理解する	クライアント・カタルシスについての概論、ミューラーリヤーの錯視の検討・実施について修得する。	竹内 高行
3	後 期	こころの捉え方について理解する。	精神力動的、行動論などの捉え方について伝え、レポートを作成する。	竹内 高行
4	後 期	こころの発達について理解する。	エリクソンの発達段階・素因と現環境についての概論、質問紙法の実施をする。	竹内 高行
5	後 期	傾聴・共感と理解についての概論を理解する。	先回の講義にて行った質問紙法や調査法の解説を行い、レポートを作成する。	竹内 高行
6	後 期	カウンセリングと精神医学について理解する。	VIA-IS(24 性格)の方法について伝え、その後実施する。実施した結果内容をレポートとして作成する。	竹内 高行

7	後期	臨床心理学の評価法について理解する。	心理検査の概論について学び、その内容の確認として小テストを行う。	竹内 高行
8	後期	カウンセリングについて理解する。	カウンセリングの場と器(時間、空間、治療の枠等)について学び、質問紙法の実施とレポートの作成を行う。	竹内 高行
9	後期	心理療法について理解する。①	フロイト派、ユング派のアプローチについて学び、その内容を基にして触覚・知覚の検査を実施する。その結果内容をレポートとして作成する。	竹内 高行
10	後期	心理療法について理解する。②	ロジャース派、認知行動療法について今回は学び、その内容を基にして触覚・知覚の検査を実施する。その結果内容をレポートとして作成する。	竹内 高行
11	後期	心理療法について理解する。③	森田療法、臨床動作法について今回は学び、コミュニケーション方法を検討する。	竹内 高行
12	後期	コミュニティーアプローチについて理解する。	アプローチの中で心理検査、投影法、文章完成法を実施し、修得する。	竹内 高行
13	後期	小テスト	今まで学んだ内容を確認すべく試験を行い、結果をフィードバックする。	竹内 高行
14	後期	秘密保持について理解する。	ナイデファーの対人注意の心理検査を学び、実施する。	竹内 高行
15	後期	ナイデファーについて理解する。	対人注意の心理検査・評価法を学び、実施し、その結果を分析した内容をレポートにまとめ、作成する。	竹内 高行
16	後期	カウンセリングの構造について理解する。	心理療法から秘密保持まで学んだ内容を基にカウンセリングの構造についてまとめ、その内容を応用し、心理検査を行う。	竹内 高行
17	後期	まとめ	今まで学んだ内容を総説し、科目修了試験を実施する。その後解説とフィードバックを行う。	竹内 高行
成績評価方法		レポート、テストを考慮する。		
準備学習など		特になし		

学科・年次	柔道整復科
科目名	エクササイズ実習
担当者	若月 康次
単位数（時間数）	1 単位（34）
学習方法	講義および実技
教科書・参考書	NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識（特定非営利活動法人 NSCA ジャパン） NSCA レジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル（特定非営利活動法人 NSCA ジャパン）

授業概要と目的
<p>【何を学ぶか / Outline and objectives】</p> <p>ストレングストレーニングの背景となる科学的根拠、さらには最新の研究成果や知見について理解するとともに、エクササイズ自体の実践方法を習得する。</p> <p>【到達目標 / Goal】</p> <p>スポーツ選手や一般クライアントにおける基本的な身体特性の評価方法、予防・改善のためのエクササイズについて学び、実際の研究計画を立てられるようになる。</p> <p>予防的エクササイズ、現場復帰のためのエクササイズセラピー、ストレングストレーニングプログラムを作成できるようになる。</p> <p>【授業の進め方 / Method】</p> <p>エクササイズに必要な筋・腱・関節・神経等の基礎知識の確認と習得。</p> <p>スポーツ傷害に対する評価、スポーツ傷害予防・パフォーマンスアップのためのエクササイズに関する講義とディスカッション。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	ガイダンス 初回面談と健康評価の理解と実践	1. 当講義での学習方法を理解する。 2. エクササイズの意義、理論的背景を説明できる。 3. 面談方法を理解し、各書類、同意、医学的所見の意義を知り、実際に面談ができる	若月 康次
2	通年	エクササイズサイエンスとリスク管理の理解と実践	1. 機能解剖学的知識の確認と理解。 2. 緊急対応、リスク管理について理解する。 3. 健康評価ができる。	若月 康次

3	通年	エクササイズサイエンスとリスク管理の理解と実践 エクササイズの目的と意義	1. 機能解剖学的知識の確認と理解。 2. 緊急対応、リスク管理について理解する。 3. 健康評価ができる。	若月 康次
4	通年	筋骨格系の機能と構造の理解	1. 筋線維、筋組成、筋収縮、神経、骨格、それに付随する組織等、運動器の生理的特性を理解する。 2. ウェイトトレーニングの科学的根拠を理解する。	
5	通年	筋骨格系・神経の機能と構造の理解	1. 筋線維、筋組成、筋収縮、神経、骨格、それに付随する組織等、運動器の生理的特性を理解する。 2. ウェイトトレーニングの科学的根拠を理解する。	若月 康次
6	通年	Exercise 実習 ・ Back squat、Dead lift の理解と実践 ①	1. Back Squat, Dead lift について正しい方法、意義を理解する。 2. 各 exercise の目的、意義の相違点を説明できる。 3. 二人一組になり、パートナーの行う exercise について正しく指導ができる。	若月 康次
7	通年	Exercise 実習 ・ Back squat、Dead lift の理解と実践 ②	1. Back Squat, Dead lift について正しい方法、意義を理解する。 2. 各 exercise の目的、意義の相違点を説明できる。 3. 二人一組になり、パートナーの行う exercise について正しく指導ができる。	若月 康次
8	通年	Exercise 実習 ・ Front squat、Overhead squat の理解と実践 ①	1. Front Squat, Overhead squat について正しい方法、意義を理解する。 2. Back squat と Front squat, Overhead squat における目的、意義の相違点を理解する。 3. 二人一組になり、パートナーの行う exercise について正しく指導・修正ができる。	若月 康次
9	通年	Exercise 実習 ・ Front squat、Overhead squat の理解と実践 ②	1. Front Squat, Overhead squat について正しい方法、意義を理解する。 2. Back squat と Front squat, Overhead squat における目的、意義の相違点を理解する。 3. 二人一組になり、パートナーの行う exercise について正しく指導・修正ができる。	若月 康次

10	通年	Exercise 実習 ・ Front Press、Push Press、 Push jerk の理解と実践 ①	1. 三種の Press 種目について正しい方法、意義を理解する。 2. 各 exercise の目的、意義の相違点を説明できる。 3. 二人一組になり、パートナーの行う exercise について正しく指導・修正ができる。	若月 康次
11	通年	Exercise 実習 ・ Front Press、Push Press、 Push jerk の理解と実践 ②	1. 三種の Press 種目について正しい方法、意義を理解する。 2. 各 exercise の目的、意義の相違点を説明できる。 3. 二人一組になり、パートナーの行う exercise について正しく指導・修正ができる。	若月 康次
12	通年	Exercise 実習 ・ Pull up、Chin up、Bent over row の理解と実践 ①	1. 三種 Pull 種目について正しい方法、意義を理解する。 2. 各 exercise の目的、意義の相違点を説明できる。 3. 二人一組になり、パートナーの行う Pull について正しく指導・修正ができる。	若月 康次
13	通年	Exercise 実習 ・ Pull up、Chin up、Bent over row の理解と実践 ②	1. 三種 Pull 種目について正しい方法、意義を理解する。 2. 各 exercise の目的、意義の相違点を説明できる。 3. 二人一組になり、パートナーの行う Pull について正しく指導・修正ができる。	若月 康次
14	通年	Exercise 実習 ・ Bench Press、Bar dip、Push up の理解と実践 ①	1. 三種の Push 種目について正しい方法、意義を理解する。 2. 各 exercise の目的、意義の相違点を説明できる。 3. 二人一組になり、パートナーの行う Push について正しく指導・修正ができる。	若月 康次
15	通年	Exercise 実習 ・ Bench Press、Bar dip、Push up の理解と実践 ②	1. 三種の Push 種目について正しい方法、意義を理解する。 2. 各 exercise の目的、意義の相違点を説明できる。 3. 二人一組になり、パートナーの行う Push について正しく指導・修正ができる。	若月 康次

16	通年	Exercise 実習 ・Clean、Snatch、Power トレーニングの理解と実践	1. Power 種目について正しい方法、意義を理解する。 2. 各 exercise の目的、意義の相違点を説明できる。 3. 二人一組になり、パートナーの行う exercise について正しく指導・修正ができる。	若月 康次
17	通年	まとめと試験	1. 解剖・生理学、運動学に関連する国家試験に準じた試験と解説	若月 康次
評価方法		実技・筆記試験および出欠席の状況、実技への参加態度により評価する。		
準備学習など		「NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識」での予習と、エクササイズの自主練習をしておく と理解しやすい。		

学科・年次	柔道整復科・1学次
科目名	解剖学Ⅰ
担当者	安井正佐也
単位数（時間数）	4単位(68時間)
学習方法	おもに講義によるが、グループワークやビデオを活用する
教科書・参考書	解剖学(医歯薬出版)、プロメテウス解剖学アトラス、解剖学総論運動器系(医学書院)

授業概要と目的
<p>柔道整復師が知っておくべき解剖学の知識は格段に増えている。解剖学では身体の成り立ちを学び、医療との接点を容易につかめる内容としたい。特に人間の全体像について、その成り立ちや働き、そしてどのような異常が疾患につながるのかなど分野横断的に理解する力をつけるために、正常な人体の仕組みについて、細胞のレベルから組織、器官、個体に至るまでを系統的に修得する。正常構造と正常な機能を知ってはじめて人体の病的変化を理解することができる。人体の地図帳ともいべき膨大な解剖学の知見のうちから基本となるものを理解し、専門用語を修得する。</p> <p>解剖学Ⅰでは、人体構造の基本となる運動器に属する骨、関節、筋の構造と機能を学習し、疾患との関係を理解するための基本知識を医師として臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	ガイダンス	解剖学を学ぶにあたっての心構えを確認し、学習方法を認識することができる。	安井正佐也
2	前期	解剖学を学ぶ意義	柔道整復師として一人前になるために必須となる解剖学を学ぶ意義を認識することができる。	安井正佐也
3	前期	人体解剖学概説①（細胞および組織）	細胞の形態と内部構造、組織の分類と特性について説明できる。	安井正佐也
4	前期	人体解剖学概説②（発生）	人体の発生について学習し、細胞レベルで認識できる。	安井正佐也
5	前期	人体解剖学概説③（胚葉について、人体の区分①）	人体の区分を理解し、ランドマークとなる部位を正確に触れることができる。	安井正佐也
6	前期	人体の区分について② 骨格系総論（骨の役割、形状による分類）	骨の発生や連結について学習し、骨格系の基本的な知識を習得する。	安井正佐也
7	前期	骨の構造、骨の発生、骨表面の形状	脊柱の基本構造を学習し、頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨の構造の違いを説明できる。	安井正佐也

8	前期	骨の連結、脊柱の役割と運動、椎骨の基本構造	胸郭を構成する骨とその機能を学習し、実際に触れて体表からランドマークとなる部位の位置を認識できる。	安井正佐也
9	前期	骨格系各論、脊柱、脊柱の連結	肩甲骨、鎖骨、上腕骨の構造を理解し、筋や靭帯の付着部となる部位名称を説明できる。	安井正佐也
10	前期	胸郭（胸骨、肋骨）胸郭の連結、上肢骨（肩甲骨、鎖骨、上腕骨）	橈骨、尺骨、手根骨、手指骨の構造を理解し、筋や靭帯の付着部となる部位名称を説明できる。	安井正佐也
11	前期	自由上肢の骨（橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨）	肩関節、肘関節、手関節および手指の関節の構造を理解し、運動の仕組み説明できる。	安井正佐也
12	前期	上肢の関節、靭帯（肩鎖関節、肩関節、肘関節、手関節）	骨盤および大腿骨の構造を理解し、筋や靭帯の付着部となる部位名称を説明できる。	安井正佐也
13	前期	上肢の関節、靭帯（肘関節、手関節、手根、手指）	脛骨、腓骨、足根骨、足趾骨の構造を理解し、筋や靭帯の付着部となる部位名称を説明できる。	安井正佐也
14	前期	下肢骨 寛骨、骨盤、大腿骨	仙腸関節、恥骨結合、股関節、膝関節、足関節および足部の関節の構造を理解し、運動の仕組みを説明できる。	安井正佐也
15	前期	下肢骨 膝蓋骨、脛骨、腓骨、足の骨	頭蓋の骨と連結を学習する。	安井正佐也
16	前期	下肢の関節、頭蓋	骨学を中心にこれまで学習した内容について知識の定着度を確認する。	安井正佐也
17	前期	頭蓋の骨、通路	筋の形態や機能に関する基礎的なことを学習し、各論に活かせるようになる。	安井正佐也
18	前期	骨格筋総論	頭部の筋について、特に咀嚼に関する筋の構造と機能を説明できる。	安井正佐也
19	前期	頭部の筋	頸部の筋について学習し、特に临床上重要な筋の起始・停止・作用を説明できる。	安井正佐也
20	前期	頸部の筋	胸郭の筋について学習し、特に临床上重要な筋の起始・停止・作用を説明できる。	安井正佐也
21	前期	胸部の筋	呼吸運動について学習し、呼気と吸気に関与する筋を説明できる。	安井正佐也
22	前期	呼吸運動、腹部の筋	腹部の筋について学習し、疾患と結びつけてその構造と機能を説明できる。	安井正佐也

23	前期	細胞～骨格までのまとめ、背部の筋	背部の筋について学習し、疾患と結びつけてその構造と機能を説明できる。	安井正佐也
24	前期	背部の筋、上肢帯の筋	上肢帯の筋について学習し、疾患と結びつけてその構造と機能を説明できる。	安井正佐也
25	前期	上肢の筋	上腕の筋について学習し、疾患と結びつけてその構造と機能を説明できる。	安井正佐也
26	前期	前腕の筋	前腕の筋について学習し、疾患と結びつけてその構造と機能を説明できる。	安井正佐也
27	前期	手の筋	手の筋について学習し、疾患と結びつけてその構造と機能を説明できる。	安井正佐也
28	前期	下肢の筋（下肢帯、大腿の筋）	下肢帯の筋について学習し、疾患と結びつけてその構造と機能を説明できる。	安井正佐也
29	前期	下肢の筋（臀部、大腿の筋）	大腿の筋について学習し、疾患と結びつけてその構造と機能を説明できる。	安井正佐也
30	前期	下肢の筋（大腿、下腿の筋）	下腿の筋について学習し、疾患と結びつけてその構造と機能を説明できる。	安井正佐也
31	前期	下肢の筋（下腿の筋）	足の筋について学習し、疾患と結びつけてその構造と機能を説明できる。	安井正佐也
32	前期	下肢の筋（足の筋）	運動器のまとめを行い、重要事項を再認識することができる。	安井正佐也
33	前期	これまでの総復習（骨格筋のみ）	国家試験過去問を中心に知識の再確認を行う。	安井正佐也
34	前期	骨格筋のまとめ及び演習	運動器に関する試験を行い、学習度を評価する。	安井正佐也
成績評価方法		成績評価は試験結果に出席率と受講態度を加味する。		
準備学習など		復習を重視し、当日のうちに到達目標を達成しておく。		

学科・年次	柔道整復科・1学次
科目名	解剖学 II
担当者	安井 正佐也
単位数 (時間数)	4 単位 (68 時間)
学習方法	おもに講義によるが、グループワークやビデオを活用する
教科書・参考書	解剖学(医歯薬出版)、プロメテウス解剖学アトラス、解剖学総論運動器系(医学書院)

授業概要と目的
<p>柔道整復師に必要な基礎医学の知識である解剖学のうち、解剖学 II では、全身に広がる臓器である神経系、感覚器、脈管系、内分泌系について学ぶ。まず、神経解剖学の基本的概念や事項、中枢神経系と末梢神経系の構造の全体像を理解する。全身の一般・特殊感覚器について学ぶ。脈管系では、心臓の構造、血管系とリンパ系について学ぶ。また内分泌系の全身的な調節機構と各分泌器の構造を医師として臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期	神経系 総論 (1) 神経系の種類、区分、神経組織、細胞、神経伝達について学ぶ。	①中枢神経と末梢神経の特徴を説明できる。 ②神経細胞の特徴を説明できる。 ③神経膠細胞の特徴を説明できる。 ④神経情報の伝達の仕組みを説明できる。	安井正佐也
2	後 期	神経系 総論 (2) 脳室系、脳脊髄液、髄膜、脳血管について学ぶ。	①脳室系を、脳脊髄液の流れに沿って順番に挙げることができる。 ②髄膜について説明できる。 ③脳血管の特徴について説明できる。	安井正佐也
3	後 期	神経系 総論 (2) の続き 脳室系、脳脊髄液、髄膜、脳血管について学ぶ。	①中枢神経の構造について説明できる。 ②灰白質と白質の区別を説明できる。 ③大脳の頭葉の境界を説明できる。 ④大脳髄質の線維の種類を説明できる。	安井正佐也
4	後 期	神経系概論 中枢神経の構造について学ぶ。終脳の構造について学ぶ。	①大脳皮質の機能局在について説明できる。 ②各頭葉に分布する中枢の例を1つずつ挙げることができる。 ③大脳基底核について説明できる。	安井正佐也

5	後期	脳室系、脳脊髄液、髄膜	①視床の構造と機能について説明できる。 ②視床下部の構造と機能について説明できる。	安井正佐也
6	後期	脳血管、終脳 終脳の各部の機能について学ぶ。	①小脳の構造と機能について説明できる。	安井正佐也
7	後期	大脳基底核	①脳幹の区分、役割を説明できる。 ②脳幹の共通する構造・機能と、各部の特徴について説明できる。	安井正佐也
8	後期	大脳辺縁系	①脊髄の区分、構造と機能について説明できる。 ②前角、側角、後角の特徴を説明できる。 ③前索、側索、後索の特徴を説明できる。	安井正佐也
9	後期	間脳 間脳の構造と機能を学ぶ。	①錐体路の經由する中枢神経の部位について説明できる。 ②錐体路に影響を与える神経回路について説明できる。	安井正佐也
10	後期	中脳 脳幹の区分、役割について学ぶ。	①脊髄視床路、後索路について説明できる。	安井正佐也
11	後期	橋、延髄、小脳 小脳の構造と機能を学ぶ。	①視覚伝導路について説明できる。 ②聴覚伝導路について説明できる。 ③平衡覚伝導路について説明できる。	安井正佐也
12	後期	脊髄、伝導路 脊髄の区分、構造と機能を学ぶ。 下行性伝導路伝導路について学ぶ。	①末梢神経の特徴を説明できる。 ②脳神経 12 対の名称を挙げられる。 ③脳神経 12 対の核の位置を示すことができる。 ④脳神経 12 対の、頭蓋を出る構造を説明できる。	安井正佐也
13	後期	伝導路、末梢神経概論 末梢神経の特徴、種類と方向、伝達内容を理解する。 脳神経 (1) 脳神経 I~XII を理解する。	①各脳神経に含まれる神経線維の種類を説明できる。	安井正佐也

14	後期	脳神経(2) 脊髄神経とはなにか、脊髄神経の全体像を理解する。	①脊髄神経に共通する構造と機能を説明できる。 ②脊髄神経の区分、それぞれの椎骨との関連を説明できる。	安井正佐也
15	後期	末梢神経 頸神経叢、腕神経叢、腰仙骨神経叢について理解を深める。	①頸神経叢、腕神経叢、腰仙骨神経叢を説明できる。	安井正佐也
16	後期	自律神経 自律神経の機能及び神経線維の走行を理解する。	①自律神経の走行と機能について説明できる。	安井正佐也
17	後期	神経系のまとめと試験 国家試験問題の過去問を解き、柔道整復師に必要な末梢神経の知識のレベルを確かめる。	①国家試験の過去問を解いて知識のレベルを確かめる。 ②不明な部分につき、あらためて補足説明を求める。	安井正佐也
18	後期	感覚器（外皮） 外皮及び皮膚の構造を理解する。 嗅覚器の構造を理解する。 味覚神経を理解する。	①皮膚の構造を説明できる。 ②嗅覚器の構造、嗅球、嗅覚中枢について説明できる。 ③舌の味蕾について説明できる。	安井正佐也
19	後期	感覚器（嗅覚・味覚） 視覚について、眼球の構造、光受容器と網膜 視覚路、眼球付属器を相互に関連付けて理解する。	①眼球の構造を説明できる。 ②光の通過する構造の名称を前方から順に言うことができる。 ③光が受容され視神経に情報が渡されるまでの経路を説明できる。 ④眼球付属器について説明できる。	安井正佐也
20	後期	感覚器（聴覚・平衡覚） 聴覚・平衡覚について、耳の構造、聴覚、平衡覚を相互に関連付けて理解する。	①外界からの聴覚受容器まで音（の情報）が通過する構造を順次挙げることができる。 ②聴覚器について説明できる。 ③平衡覚に関わる構造を説明できる。	安井正佐也
21	後期	感覚器（聴覚・平衡覚） 脈管系（循環系）の構成要素、全体像、循環の種類、血液について学ぶ。	①心臓の役割について説明できる。 ②脈管系（循環系）には心臓以外にどのような構造があるか説明できる。 ③大循環と小循環の違いを説明できる。 ④血液によって運ばれるものを挙げられる。	安井正佐也

22	後期	感覚器（視覚） 脈管系の組織の共通構造と特殊構造、動脈血と静脈血、血圧について学ぶ。	①脈管系の組織の共通構造を説明できる。 ②動脈血と静脈血の違いを説明できる。 ③血圧について説明できる。	安井正佐也
23	後期	神経系の試験とフィードバック 心臓の内部構造（房、室、弁）、出入りする血管、血液拍出の機構について学ぶ。	①心臓の4つの部屋、4つの弁、出入りする4種類の血管の名称を答えられる。 ②血液拍出の機構を説明できる。	安井正佐也
24	後期	脳血管系総論 心周期、心筋の収縮機構、刺激伝導系と調節、栄養血管、心膜について学ぶ。	①心周期の各時期に各弁の開閉状態をいうことができる。 ②栄養血管について説明できる。	安井正佐也
25	後期	血管系概論 血管の種類、特徴、毛細血管網における物質交換について学ぶ。	①動脈と静脈の特徴を説明できる。 ②毛細血管網における物質交換について説明できる。	安井正佐也
26	後期	動脈系（1） 動脈の種類、大動脈の走行、頭頸部の動脈の走行について学ぶ。	①弾性動脈と筋性動脈の違いを説明できる。 ②大動脈のおもな枝を順番にあげることができる。 ③脳に分布する動脈経路を説明できる。	安井正佐也
27	後期	動脈系（2） 全身の動脈の走行について学ぶ。	①上肢に分布する動脈を説明できる。 ②下肢に分布する動脈を説明できる。 ③拍動の触れられる動脈を5つ示すことができる。	安井正佐也
28	後期	静脈系（1） 全身の深静脈の走行について学ぶ。	①上大静脈・下大静脈のおもな枝を挙げることができる。	安井正佐也
29	後期	静脈系（2） 皮静脈、門脈、硬膜静脈洞、奇静脈について学ぶ。 胎児循環について学ぶ。	①皮静脈の例を3つ示すことができる。 ②門脈と深静脈との吻合を3か所挙げることができる。 ③胎児循環の遺残構造を3つ挙げることができる。	安井正佐也
30	後期	リンパ系 リンパ系の構成要素、リンパ系による生体防御のしくみについて学ぶ。	①リンパ性器官を挙げることができる。 ②リンパ節による異物への反応を説明できる。	安井正佐也

31	後 期	内分泌系総論・調節機構 内分泌とは何か、ホルモンの種類・作用と産生器官、内分泌による生理調節機構について学ぶ。	①内分泌と外分泌は何が違うか説明できる。 ②ホルモンの種類・作用と産生器官、内分泌による生理調節機構について	安井正佐也
32	後 期	各内分泌器の構造 (1) 視床下部一下垂体の構造と機能について学ぶ。	①視床下部一下垂体系による内分泌の調節について説明できる。	安井正佐也
33	後 期	各内分泌器の構造 (2) 甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、性腺の構造と機能について学ぶ。	①どれか一つの内分泌器を選び、その器官の分泌するホルモンの性質と機能について説明できる。	安井正佐也
34	後 期	感覚・脈管・内分泌のまとめと試験	感覚・脈管・内分泌に関する試験を行い、学習度を評価する。	安井正佐也
成績評価方法		出席、授業への取り組み態度、および試験による成績により評価する。		
準備学習など				

学科・年次	柔道整復学科 1年次
科目名	生理学 I
担当者	中村 浩
単位数 (時間数)	4 単位(68 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	南江堂 生理学 改訂第3版

授業概要と目的
医療従事者の一員として柔道整復師業を行うにあたり、人間がどのように生命を維持しているか、人間の生命を維持する営みはどういうものかを学ぶことで、健康や病気を理解するための基礎的知識を身につける。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「人体の構成・ホメオスタシス」 からだの化学的構成と内部環境の恒常性維持について理解する。	「人体を構成する化学物質とそれを維持するホメオスタシスについて学ぶ」 ①原子、分子、有機化合物、糖質、脂質、蛋白質の概念が説明できる。 ②内部環境及びそれを維持するホメオスタシスの概念を説明できる。	中村浩
2	前期	「細胞の機能的構造」 人体の基本的単位である細胞の共通の構造とそれぞれの機能について理解する。	「細胞の共通の構造とミトコンドリアをはじめとした細胞内小器官の特定の機能について学ぶ」 ①細胞内小器官のそれぞれが持つ基本的な役割を説明できる。 ②DNAとRNAの構造と違いについて説明できる。	中村浩
3	前期	「受動輸送と能動輸送」 生体内で起きる物質の移動様式について理解する。	「生体内の物質の移動の概念と受動輸送、能動輸送の違いと特徴について学ぶ」 ①受動輸送の拡散、浸透、ろ過の原理を説明できる。 ②能動輸送の原理及び濃度勾配とATPの関係について説明できる。	中村浩

4	前期	「血液の役割と組成」 血液の主な働きと、体液および血液の組成について理解する。	「血液の人体における働きと血液の成分の違いについて学ぶ」 ① 血液の持つ運搬、止血、防御などの働きについて説明できる。 ②血漿と細胞成分の構成と比率について説明できる。	中村浩
5	前期	「免疫機能」 免疫の概念と免疫担当細胞について理解する。	「免疫の概念と免疫担当細胞の種類と役割について学ぶ」 ①免疫の概念と仕組みについて説明できる。 ②免疫を担当する骨髄球とリンパ球の役割と違いについて説明できる。	中村浩
6	前期	「血液型」 血液に含まれる凝集原と凝集素及び血液型との関係を理解する。	「A B O式血液型の凝集原と凝集素の関係について学ぶ」 ①凝集原と凝集素の概念と違いを説明できる。 ②A B O式血液型の凝集原と凝集素と凝集反応の関係を説明できる。	中村浩
7	前期	「血液凝固」 止血の機序と血液凝固の機序について理解する。	「止血から血栓除去までの流れとモラビッツの凝固機序から血液凝固の流れを学ぶ」 ①止血の一連の流れと段階について説明できる。 ②血液凝固因子とモラビッツの凝固機序について説明できる。	中村浩
8	前期	「循環系の概念と心臓の構造」 循環系の成り立ちと循環の中核である心臓の構造について理解する。	「循環と運搬の関係と心筋の興奮伝導系について学ぶ」 ①循環系の成り立ちについて説明できる。 ②心臓の興奮伝導系の種類について説明できる。	中村浩
9	前期	「心筋の基本的性質」 心筋の自動性、興奮性、伝導性、収縮性について理解する。	「心筋の性質である自動性、興奮性、伝導性、収縮性について学ぶ」 ①心筋の興奮機序と伝導について説明できる。 ②洞調律など自動性について説明できる。 ③心筋の収縮における機械的性質について説明できる。	中村浩

10	前期	「心電図」 正常心電図の概念と心電図の成分を理解する。	「心電図曲線の成り立ちと心電図の成分について学ぶ」 ①心電図の誘導法と棘波について説明できる。 ②棘波それぞれの意味について説明できる。	中村浩
11	前期	「心臓のポンプ機能」 心周期について理解する。	「心周期の流れと心内圧の変化について学ぶ」 ①心周期に伴って心臓に起こるできごとを説明できる。 ②心周期それぞれの心内圧の状態について説明できる。	中村浩
12	前期	「血管系」 各血管の構造と働き及び血圧について理解する。	「各血管の構造と働きの違いと血圧の用語について学ぶ」 ①血管それぞれの違いを説明できる。 ②血圧の用語と測定法について説明できる。	中村浩
13	前期	「循環の調節」 循環の調節と局所の循環について理解する。	「神経性調節と体液性調節及び局所循環について学ぶ」 ①神経性調節と体液性調節の仕組みを説明できる。 ②局所の循環の特徴と違いについて説明できる。	中村浩
14	前期	「換気の仕組みと内圧」 換気の仕組みと肺胞内圧と胸腔内圧の関係について理解する。	「吸息と呼息のしくみと呼吸時の内圧について学ぶ」 ①吸息と呼息で起こる人体の動きを説明できる。 ②肺胞内圧と胸腔内圧の違いと呼吸時の変化を説明できる。	中村浩
15	前期	「肺容積の区分とコンプライアンス及びガス交換」 肺容積の区分と呼吸のための仕事、呼吸時のガス交換の仕組みについて理解する。	「換気量などの肺容積とコンプライアンス及びガス分圧とガス交換の仕組みについて学ぶ」 ①換気量、残気量、死腔量などの肺容積の区分を説明できる。 ②コンプライアンスについての概念を説明できる。 ③ガス分圧とガス交換の仕組みを説明でき	中村浩

			る。	
16	前期	「酸素の運搬と酸素解離曲線」 酸素の運搬の概念と酸素解離曲線について理解する。	「酸素運搬と基本と酸素解離曲線の変化について学ぶ」 ①酸素運搬とヘモグロビンの関係について説明できる。 ②ヘモグロビンと酸素結合度に影響する因子と酸素解離曲線について説明できる。	中村浩
17	前期	「二酸化炭素の運搬と呼吸を調節する仕組み」 血中の二酸化炭素の運搬と呼吸の調節について理解する。	「二酸化炭素運搬の仕組みと呼吸の周期性形成について学ぶ」 ①二酸化炭素の運搬の仕組みと様式について説明できる。 ②呼吸中枢と呼吸の周期性形成について説明できる。	中村浩
18	前期	「肺換気量の調節と異常呼吸」 受容器による肺換気量の調節と呼吸型の異常について理解する。	「受容器を介した呼吸調節の仕組みと異常呼吸について学ぶ。」 ①受容器の働きと呼吸調節の仕組みについて説明できる。 ②異常呼吸の種類と疾患について説明できる。	中村浩
19	前期	「消化器の役割と消化管の運動」 消化器の役割と構成及び消化管の運動について理解する。	「消化器の主たる役割と構成、消化管の運動の種類と神経性調節について学ぶ」 ①消化器の役割について説明できる。 ②消化管の運動の違いと神経性調節の違いについて説明できる。	中村浩
20	前期	「消化液の分泌機序」 消化液分泌の機序の違いと分泌調節について理解する。	「唾液、胃液などの消化液の分泌機序と分泌機序の種類について学ぶ」 ①神経性機序と体液性機序の違いを説明できる。 ②消化液の種類と分泌機序について説明できる。	中村浩
21	前期	「消化と吸収」 栄養素の消化と吸収について理解する。	「栄養素の消化と消化酵素及びそれぞれの栄養素の吸収様式について学ぶ」 ①各栄養素の消化の仕組みと消化酵素の種類とその作用について説明できる。 ②各栄養素の吸収の仕組みについて説明できる。	中村浩

22	前期	「消化管ホルモンと肝臓」 消化管ホルモンの特徴と肝臓と胆道系の働きについて理解する。	「消化管ホルモンの種類と作用および消化吸収と肝臓、胆道系の関りについて学ぶ」 ①消化管ホルモンの分泌調節と作用について説明できる。 ② 肝臓、胆道の働きと胆汁について説明できる。	中村浩
23	前期	「生体の構成成分と栄養素とその代謝」 栄養素の種類と代謝によるエネルギー産生について理解する。	「ビタミン含む栄養素の種類と代謝によるエネルギー産生過程について学ぶ」 ①各栄養素の種類と特徴について説明できる。 ②クエン酸回路、電子伝達系について説明できる。	中村浩
24	前期	「中間代謝とエネルギー代謝」 中間代謝の仕組みとエネルギー代謝について理解する。	「各栄養素の中間代謝の仕組みと各種のエネルギー代謝について学ぶ」 ①空腹期と吸収期の中間代謝について説明できる。 ②栄養素のエネルギー産生量や基礎代謝などについて説明できる。	中村浩
25	前期	「体温と熱産生」 体温の概念と体内における熱の産生について理解する。	「人の体温の概念と体温の変動及び熱の産生について学ぶ」 ①体温の測定や生理的変動について説明できる。 ②熱産生時の身体活動について説明できる。	中村浩
26	前期	「熱放散と体温の調節」 熱放散の仕組みと発汗、体温の調節について理解する。	「発汗など熱放散時の生理的仕組みと体温の調節について学ぶ」 ①熱放散の方式と外部環境との関係について説明できる。 ②体温調節と中枢の関係について説明できる。	中村浩
27	前期	「腎臓の構造と機能」 泌尿器としての腎臓の構造と機能を理解する。	「腎臓の構造とクリアランスなどの機能について学ぶ」 ①腎小体や尿細管などの腎臓の構造について説明できる。 ②クリアランス、糸球体ろ過量、腎血漿流量について説明できる。	中村浩

28	前期	「糸球体ろ過と尿細管での再吸収」 糸球体で起こるろ過と尿細管で起こる再吸収について理解する。	「糸球体での血漿のろ過と各物質の尿細管での再吸収について学ぶ」 ①糸球体毛細血管からボーマン嚢への血漿ろ過について説明できる。 ②各物質の尿細管における再吸収の仕組みを説明できる。	中村浩
29	前期	「尿細管での分泌と排尿」 尿細管で起こる分泌と排尿の仕組みについて理解する。	「各物質の尿細管での分泌と排尿の仕組みについて学ぶ」 ①尿細管での水素イオンやカリウムイオンなどの分泌について説明できる。 ②排尿中枢含む排尿反射の仕組みについて説明できる。	中村浩
30	前期	「ホルモンの一般的性質」 ホルモンの定義、組成、分泌調節、運搬と作用機序について理解する。	「ホルモンの定義、組成、分泌調節、血中運搬と作用機序について学ぶ」 ①内分泌器官とホルモンの特性を説明できる。 ②ホルモンの化学的組成とフィードバック系による分泌調節について説明できる。 ③血中運搬と代謝及び作用機序の仕組みについて説明できる。	中村浩
31	前期	「視床下部及び下垂体前葉・後葉ホルモン」 視床下部及び下垂体から分泌されるホルモンについて理解する。	「視床下部ホルモンと下垂体ホルモンの特徴、種類、作用について学ぶ」 ①視床下部ホルモンの特徴、種類、作用について説明できる。 ②下垂体前葉・後葉ホルモンの特徴の違いと種類、作用について説明できる。	中村浩
32	前期	「甲状腺ホルモン」 甲状腺から分泌されるホルモンについて理解する。	「甲状腺ホルモンの特徴、種類、作用について学ぶ」 ①甲状腺ホルモンの特徴、種類、作用について説明できる。	中村浩
33	前期	「副腎皮質・髄質のホルモン」 副腎から分泌されるホルモンについて理解する。	「副腎皮質・髄質ホルモンの特徴、種類、作用について学ぶ」 ①副腎皮質ホルモンの特徴、種類、作用について説明できる。 ②副腎髄質ホルモンの特徴、種類、作用について説明できる。	中村浩

34	前期	「睪嚢および精巣・卵巣のホルモン」 睪嚢及び精巣・卵巣から分泌されるホルモンについて理解する。 ・ 科目試験	「睪嚢ホルモンと精巣・卵巣ホルモンの特徴、種類、作用について学ぶ」 ①睪嚢ホルモンの特徴、種類、作用について説明できる。 ②精巣ホルモンの特徴、種類、作用について説明できる。 ③卵巣ホルモンの特徴、種類、作用について説明できる。	中村浩
成績評価方法		中間試験(40%) 科目試験(60%)		
準備学習など		教科書や配布資料等を用いて予習復習に努めること。		
留意事項		特になし		

学科・年次	柔道整復学科 1年次
科目名	生理学Ⅱ
担当者	中村 浩
単位数（時間数）	4単位(68時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	南江堂 生理学 改訂第3版

授業概要と目的
医療従事者の一員として柔道整復師業を行うにあたり、人間がどのように生命を維持しているか、人間の生命を維持する営みはどういうものかを学ぶことで、健康や病気を理解するための基礎的知識を身につける。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期	「性染色体と性分化」 性染色体の種類と性分化について理解する。	「性染色体と生殖腺、副生殖器、脳の性分化について学ぶ」 ①性染色体の種類と性別との関係を説明できる。 ②生殖腺、副生殖器、脳の性分化の性差について説明できる。	中村浩
2	後 期	「生殖器」 男性生殖器の構成と精子形成及び女性生殖器の構成について理解する。	「男性生殖器の構成と精子の形成過程から射精までと女性生殖器の構成について学ぶ」 ①男性・女性生殖器の構成について説明できる。 ②精子の形成から勃起、射精の一連の流れを説明できる。	中村浩
3	後 期	「卵巣・月経周期と妊娠・分娩」 女性の性周期の流れと妊娠・分娩・乳汁分泌の流れを理解する。	「卵巣・月経周期及び関係するホルモンと妊娠・分娩・乳汁分泌の一連について学ぶ」 ①卵巣・月経周期をホルモンの作用を交えながら説明できる。 ②妊娠・分娩・乳汁分泌をホルモンの作用を交えながら説明できる。	中村浩

4	後期	「骨の構造と形成及び代謝」 骨の構造と形成・成長及びカルシウム代謝とリン代謝について理解する。	「骨の構造と形成・成長の基本的知識と骨の成分であるカルシウム、リンの代謝について学ぶ」 ①骨の構造と骨の骨化様式について説明できる。 ②カルシウム代謝とリン代謝の基本と低下症状について説明できる。	中村浩
5	後期	「ビタミンDとホルモン」 ビタミンDと骨の維持に関わるホルモンについて理解する。	「ビタミンDの合成・作用と上皮小体ホルモンとカルシトニンの特徴と作用について学ぶ」 ①骨におけるビタミンDの役割と合成について説明できる。 ②上皮小体ホルモン、カルシトニンの特徴分泌、作用について説明できる。	中村浩
6	後期	「体液区分と恒常性維持」 人体の体液の区分と組成、体液恒常性の維持の仕組みを理解する。	「体液の区分・水のバランス・イオン組成と恒常性を維持する仕組みについて学ぶ」 ①細胞外液と内液、細胞内外のイオンバランスについて説明できる。 ②体液浸透圧と体液量の調節について説明できる。	中村浩
7	後期	「酸塩基平衡の調節」 水素イオン濃度とpHの調節について理解する。	「体液酸塩基平衡とその調節及びアシドーシスとアルカローシスを学ぶ」 ①人体の水素イオン濃度とpHの環形について説明できる。 ②アシドーシスとアルカローシスの原因と変化について説明できる	中村浩
8	後期	「神経細胞の形態と静止膜電位」 神経細胞の形態と静止膜電位の形成と維持について理解する。	「神経細胞の形態の特徴と静止膜電位形成の仕組みについて学ぶ」 ①有髄神経と無髄神経の形態について説明できる。 ②静止膜電位の概念と形成の仕組みと維持について説明できる。	中村浩
9	後期	「活動電位」 活動電位の概念と活動電位の形成に関わるものを理解する。	「活動電位の発生と閾刺激、全か無かの法則、不応期、チャネルについて学ぶ」 ①活動電位の概念と発生について説明できる。 ②活動電位に関係する閾値、全か無かの法	中村浩

			則、不応期、チャネルについて説明できる。	
10	後期	「興奮の伝導」 活動電位によって生じた興奮が伝導する仕組みと法則を理解する。	「伝導の三原則、跳躍伝導、興奮の伝導速度の違いについて学ぶ」 ①伝導の三原則をそれぞれ説明できる。 ②神経線維の分類から跳躍伝導と伝導速度の説明ができる。	中村浩
11	後期	「興奮の伝達」 シナプス伝達の特徴と化学伝達物質について理解する。	「シナプスの構造と伝達の特徴及び化学伝達物質の概念と種類について学ぶ」 ①シナプス伝達の発生と特徴について説明できる。 ②化学伝達物質の種類と興奮・抑制の関係について説明できる。	中村浩
12	後期	「神経系の成り立ち」 神経系の種類の違いについて理解する。	「中枢神経、末梢神経などの用語と分類及び脊髄と脳幹の構造について学ぶ」 ①各神経系の分類と違いを説明できる。 ②脊髄と脳幹の構造と位置関係を説明できる。	中村浩
13	後期	「脳神経と脊髄神経」 12脳神経の機能と脊髄神経の構成について理解する。	「脳神経の種類とそれぞれの機能及び脊髄神経の構成について学ぶ」 ①脳神経の種類と中枢、機能について説明できる。 ②脊髄神経31対の構成について説明できる。	中村浩
14	後期	「自律神経による内臓機能の調節」 自律神経とそれによる内臓機能の調節について理解する。	「自律神経の種類と効果器支配の関係及びその分布と内臓反射について学ぶ」 ①交感神経と副交感神経の違いを説明できる。 ②自律神経と化学伝達物質及び効果器支配についての関係を説明できる。 ③自律神経の関わる内臓反射の種類と違いについて説明できる。	中村浩
15	後期	「視床下部による内臓機能の調節」 視床下部にある中枢と行動の調節について理解する。	「視床下部により統合される機能と摂食行動・情動行動の調節について学ぶ」 ①視床下部の構造と調節する機能を説明できる。 ②摂食行動と情動行動の調節について説明	中村浩

			できる。	
16	後 期	「骨格筋の感覚器」 筋紡錘と腱紡錘について理解する。	「筋紡錘と腱紡錘の構造とそれぞれの特徴及び機能について学ぶ」 ①筋紡錘の構造と入出力する線維と機能について説明できる。 ②腱紡錘の構造と分布する線維と機能について説明できる。	中村浩
17	後 期	「脊髄反射」 伸張反射などの脊髄に中枢を持つ反射の種類と概念について理解する。	「伸張反射、屈曲反射などの脊髄反射の特徴と反射弓及び脊髄損傷時の変化について学ぶ」 ①伸張反射を主とした脊髄反射の概念と反射弓及び作用を説明できる。 ②脊髄ショックとブラウンセカール症候群について説明できる。	中村浩
18	後 期	「脳幹の運動機能と反射」 除脳固縮と脳幹における反射の種類と概念について理解する。	「除脳固縮の概念と頸反射などの脳幹反射の種類と特徴について学ぶ。」 ①除脳固縮の概念と内容について説明できる。 ②頸反射などの脳幹を中枢とする体制運動反射の種類と作用について説明できる。	中村浩
19	後 期	「小脳と大脳基底核の機能」 小脳の構造と役割及び大脳基底核の構造と役割について理解する。	「小脳の構造と役割及び大脳基底核の構造と役割、障害による運動失調について学ぶ」 ①小脳の構造と運動機能の調節について説明できる。 ②大脳基底核の構造と運動機能の調節について説明できる。 ③大脳基底核の損傷による運動失調について説明できる。	中村浩
20	後 期	「大脳新皮質運動野」 大脳新皮質運動野の構造と役割について理解する。	「大脳新皮質運動野の構造と役割について学ぶ」 ①新皮質運動野の構造と機能区分について説明できる。 ②新皮質運動野による運動機能の調節について説明できる。	中村浩

21	後 期	「大脳皮質の機能分化と脳波」 大脳皮質の部位による構造上の 差異と機能分化及び脳波につ いて理解する。	「大脳新皮質の機能分化及び正常脳波と異 常脳波について学ぶ」 ①大脳新皮質と辺縁皮質の差異と新皮質の 機能分化について説明できる。 ②正常脳波と異常脳波の種類の違いを説明 できる。	中村浩
22	後 期	「覚醒と睡眠」 意識レベルの概念と睡眠の種類 について学ぶ。	「意識レベルと覚醒に関わる上行性賦活系 及びレム睡眠とノンレム睡眠について学 ぶ」 ①意識の覚醒と上行性毛様体賦活系の環形 について説明できる。 ②ノンレム睡眠とレム睡眠の特徴と脳波に ついて説明できる。	中村浩
23	後 期	「新皮質連合野の統合機能と学 習・記憶」 認知、言語などの高等な精神機 能と学習と記憶について理解す る。	「認知、言語、意思と感情及び学習と記憶 のメカニズムについて学ぶ」 ①新皮質連合野の認知、言語機能などの機 能について説明できる。 ②学習の種類と記憶の保持とメカニズムに ついて説明できる。	中村浩
24	後 期	「筋肉の種類と骨格筋の構造」 筋肉の種類とそれぞれの特徴及 び骨格筋の構造について理解す る。	「筋肉の分類と特徴と骨格筋の線維の分類 及び骨格筋の構造について学ぶ」 ①骨格筋、心筋、平滑筋の分類と特徴につ いて説明できる。 ②骨格筋線維のタイプの分類を説明でき る。 ③骨格筋の構造単位について説明できる。	中村浩
25	後 期	「筋収縮の仕組み」 筋収縮時の筋節構造の変化につ いて理解する。	「筋収縮過程と構造変化の仕組みと筋細胞 膜の興奮について学ぶ」 ①カルシウムイオンやアクチンフィラメン トといった用語を用いて筋収縮の流れを説 明できる。 ②筋細胞膜を興奮させる物質や仕組みにつ いて説明できる。	中村浩
26	後 期	「骨格筋の収縮の仕方」 収縮様式と強縮及び筋肉の長さ と張力の関係について理解す る。	「等尺性・等張性収縮と加重と強縮及び静 止張力について学ぶ」 ①等尺性・等張性収縮の違いについて説明 できる。	中村浩

			②単収縮と強縮の違いについて説明できる。 ③静止張力発生の仕組みについて説明できる。	
27	後期	「筋収縮のエネルギーと熱産生」 筋収縮時のエネルギーについてと筋活動による熱の発生を理解する。	「筋収縮時のエネルギー利用とその産生の過程及び筋収縮時の熱発生について学ぶ」 ①筋の収縮・弛緩と ATP の関係と産生過程について説明できる。 ②筋運動によって起こる熱産生のメカニズムについて説明できる。	中村浩
28	後期	「平滑筋」 平滑筋の構造、支配神経、種類、収縮について理解する。	「平滑筋の構造や種類及び収縮の特徴について学ぶ」 ①平滑筋の構造と支配神経、収縮と弛緩の特徴について説明できる。 ②単ユニット平滑筋と多ユニット平滑筋の違いについて説明できる。	中村浩
29	後期	「心筋」 心筋の構造と特徴及び収縮の仕組みについて理解する。	「心筋の構造とその特徴及び心筋の収縮の仕組みについて学ぶ」 ①心筋の構造と心筋特有の特徴について説明できる。 ②心筋の収縮の仕組みと歩調取りについて説明できる。	中村浩
30	後期	「感覚の種類と感覚器」 感覚の分類と感覚受容器の種類と特徴について理解する。	「それぞれの感覚の分類と種類及び受容器について学ぶ」 ①感覚の分類と種類を説明できる。 ②感覚の分類と受容器の種類の組合せを説明できる。	中村浩
31	後期	「体性感覚と内臓感覚」 体性感覚及び内臓感覚について理解する。	「体性感覚の種類と伝導路及び内臓感覚(痛覚)について学ぶ」 ①体性感覚と深部感覚の特徴と伝導路について説明できる。 ②内臓感覚と内臓痛覚の特徴について説明できる。	中村浩
32	後期	「嗅覚・味覚・聴覚」 嗅覚・味覚・聴覚の受容器と伝導について理解する。	「嗅覚・味覚・聴覚の受容器と伝導及び特徴について学ぶ」 ①嗅覚・味覚の受容器と伝導路及び中枢について説明できる。	中村浩

			②聴覚の受容器と伝導路及び音の伝達と中枢について説明できる。	
33	後期	「視覚」 視覚器の構造と受容器及び伝導について理解する。	「眼の構造、光の受容及び伝導路について学ぶ」 ①眼の構造と結像について説明できる。 ②光の受容器と伝導及び暗順応と明順応について説明できる。	中村浩
34	後期	「前庭感覚」 前庭器官の構造と受容器及び平衡感覚について理解する。 ・ 科目試験	「平衡感覚系の概念と前庭器官の構造及び受容器と伝導路について学ぶ」 ①平衡感覚と加速度について説明できる。 ②半規管と耳石器及び伝導路について説明できる。	中村浩
成績評価方法		中間試験(40%) 科目試験(60%)		
準備学習など		教科書や配布資料等を用いて予習復習に努めること。		
留意事項		特になし		

学科・年次	柔道整復科 1年次
科目名	柔整倫理（医学史含む）
担当者	鬼頭 宏
単位数（時間数）	1単位（17時間）
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（全国柔道整復学校協会編、医歯薬出版）

授業概要と目的
柔道整復師として接骨院を開業している講師が、施術も含めて接骨院に起こる様々な出来事を説明しながら、保険取り扱いに関係することから倫理的な問題、危機管理について学ぶことによって、それぞれ対応できる力を身につける。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	・ガイダンス ・柔道整復師養成施設の学生としてできることできないことを理解する。	1. 柔道整復師養成施設に通う学生がアルバイトとして接骨院でどのようなことが出来て、どのようなことが出来ないか説明できる	鬼頭 宏
2	後期	・柔道整復師の業務や業務範囲について理解する。	1. 柔道整復師がどんな分野で活躍することが出来るのか説明できる 2. 柔道整復師が出来ることと出来ないことを区別できる。	鬼頭 宏
3	後期	・柔道整復の歴史や柔道の歴史について理解する。	1. 柔道整復の歴史について大まかに説明できる。 2. 柔道の歴史について大まかに説明できる。	鬼頭 宏
4	後期	・患者の権利や個人情報保護の問題について理解する。	1. 憲法に規定されている患者の権利について説明できる。 2. インフォームドコンセントやインフォームドアセントについて説明できる。 3. 個人情報取扱事業者が守るべき5つのルールを説明できる。	鬼頭 宏

5	後期	・医療過誤とリスクマネジメントについて理解する	1. 医療過誤について説明できる。 2. インシデント、ヒヤリハット、ハインリッヒの法則について説明できる。 3. 医療事故調査制度について説明できる。	鬼頭 宏
6	後期	・モンスターペイシェントについて理解する。	1. モンスターペイシェントについて説明できる。 2. モンスターペイシェントが増えてきた原因について説明できる。 3. 接骨院におけるモンスターペイシェントについて対策することが出来る。	鬼頭 宏
7	後期	・トリアージについて理解する。	1. トリアージタグの取り扱いや仕組みについて説明できる。 2. トリアージの4つの区分について説明できる。 3. どんな場合にトリアージが必要となるか説明できる。	鬼頭 宏
8	後期	・柔道整復師が取り扱うことのできる保険制度について、医療保険、生活保護、労災保険について理解する。	1. 柔道整復師が取り扱うことのできる保険制度について説明できる。医療保険について説明できる。 2. 受領委任払いと償還払いについて説明できる。 3. 医療保険以外の生活保護や、労災保険の仕組みが説明できる。	鬼頭 宏
9	後期	・試験と全体を総括する。	1. 国家試験の出題分野がどのような分野か説明できる。 2. 柔道整復倫理のポイントとなる分野が解っている。	鬼頭 宏
成績評価方法		試験により評価する（100%）。		
準備学習など		講義の初めに前回の内容の復習を行うので、前回の資料を持ってきておくと理解しやすい。 国家試験の必修範囲が含まれるため、その分野の復習を確実にしておくと国家試験対策で役に立つ。		

学科・年次	柔道整復科
科目名	社会体育 I (柔道)
担当者	近藤英隆
単位数 (時間数)	2 単位 (68 時間 34 コマ)
学習方法	実技および講義
教科書・参考書	「柔道」全国高等学校協会体育連盟柔道部編集 史資料出版協会発行

授業概要と目的
<p>【何を学ぶか / Outline and objectives】 柔道の基本的動作及び対人的技能における攻撃・防御の技能を理論的に体得する</p> <p>【到達目標 / Goal】 技能の程度に応じた練習や試合ができるようにする。また、柔道の歴史を学び、礼儀作法や相手を尊重し、公正な態度で練習や試合ができるようにする。</p> <p>【授業の進め方 / Method】 柔道の特性を理解させて基本動作である礼法、組み方、崩し、進退動作、受身、投げ技、固め技、技の連絡変化、自由練習を体得し、安全に留意して練習や試合ができるように学習する。さらに、専門的知識及び実技能力以外に、その領域特性を踏まえた体づくり運動も行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	柔道の基本 ・柔道の基本について理解を深める	柔道の目的、内容、受け方 ・柔道の目的、内容、受け方等についての説明出来る ・柔道の基本について説明できる	近藤英隆
2	通年	基本動作 ・柔道の基本について理解を深める	礼法、自然本体、組み方、崩し ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
3	通年	基本動作 ・柔道の基本について理解を深める	礼法、自然本体、組み方、崩し ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆

4	通年	基本動作 ・柔道の基本について理解を深める	準備運動、進退動作、崩しと体さばき ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
5	通年	基本動作 ・柔道の基本について理解を深める	準備運動、進退動作、崩しと体さばき ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
6	通年	基本動作 ・柔道の基本について理解を深める	受身、後方、横、前、前廻り受身 ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
7	通年	基本動作 ・柔道の基本について理解を深める	受身、後方、横、前、前廻り受身 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
8	通年	基本動作 ・柔道の基本について理解を深める	受身、前廻り受身 ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
9	通年	基本動作 ・柔道の基本について理解を深める	受身、前廻り受身 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
10	通年	基本動作 ・柔道の基本について理解を深める	大きい動作・素早い動作からの受身 ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
11	通年	基本動作 ・柔道の基本について理解を深める	大きい動作・素早い動作からの受身 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
12	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	膝車、大腰 ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
13	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	膝車、大腰 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
14	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	体落とし、背負い投げ ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
15	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	体落とし、背負い投げ ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
16	通年	投技	打ち込み、背負い投げ、大外刈	近藤英隆

		・柔道の投技について理解を深める	・柔道の基本動作について説明できる	
17	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	打ち込み、背負い投げ、大外刈 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
18	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	約束練習、払腰、大内刈 ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
19	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	約束練習、払腰、大内刈 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
20	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	自由練習、小内刈、内股 ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
21	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	自由練習、小内刈、内股 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
22	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	連絡技の解説 ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
23	通年	投技 ・柔道の投技について理解を深める	連絡技の解説 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
24	通年	自由練習 ・事前に提示した課題についての学習を行い理解を深める	乱取りを中心に練習を行う ・柔道の基本動作について説明できる	近藤英隆
25	通年	自由練習 ・事前に提示した課題についての学習を行い理解を深める	乱取りを中心の練習 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
26	通年	自由練習 ・復習と解説を行い授業の理解を深める	乱取りを中心の練習 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
27	通年	自由練習	乱取りを中心の練習 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆

		・復習と解説を行い授業の理解を深める		
28	通年	自由練習 ・復習と解説を行い授業の理解を深める	乱取りを中心の練習 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
29	通年	自由練習 ・復習と解説を行い授業の理解を深める	乱取りを中心の練習 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
30	通年	自由練習 ・復習と解説を行い授業の理解を深める	乱取りを中心の練習 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
31	通年	自由練習 ・復習と解説を行い授業の理解を深める	乱取りを中心の練習 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
32	通年	自由練習 ・復習と解説を行い授業の理解を深める	乱取りを中心の練習 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
33	通年	自由練習 ・復習と解説を行い授業の理解を深める	乱取りを中心の練習 ・柔道の基本動作について実践できる	近藤英隆
34	通年	試験と解説	試験と解説	近藤英隆
評価方法	出席点、授業への参加意欲、試験結果を評価とする。試験(60%)、授業参画度(40%) 実技試験,授業参画度を総合的に評価する。			
準備学習など	事前学修 次回の学修内容について事前学習をしておくこと。			

学科・年次	柔道整復科 1年次
科目名	社会保障制度
担当者	鬼頭 宏
単位数（時間数）	1 単位(17 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）

授業概要と目的
柔道整復師に必要と思われる「社会保障」制度に関して概説する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期	社会保障の歴史を理解する。	我が国の社会保障の歴史について説明できる。	鬼頭 宏
2	後 期	医療提供制度の概要を理解する。(1)	医療施設の概要について説明できる。	鬼頭 宏
3	後 期	医療提供制度の概要を理解する。(2)	医療関係者について説明できる。	鬼頭 宏
4	後 期	医療保険制度 (1)	医療保険制度全般について説明できる。	鬼頭 宏
5	後 期	医療保険制度 (2)	高齢者医療制度と公費負担制度について説明できる。	鬼頭 宏
6	後 期	医療保険制度 (3)	医療給付方式と診療報酬制度について説明できる。	鬼頭 宏
7	後 期	社会保障費	社会保障給付費と国民医療費の動向について説明できる。	鬼頭 宏
8	後 期	保健・医療・福祉	地域の保健・医療・福祉の連携について説明できる。	鬼頭 宏
9	後 期	まとめ、課題レポート		鬼頭 宏

成績評価方法	授業の出席状況と課題レポート
準備学習など	新聞、テレビ、スマホなどで社会保障関係のニュースに関心を持ち見聞して下さい。
参考書	講義の都度、資料を配布する。

学科・年次	柔道整復科 1年次
科目名	基礎柔道整復学 I
担当者	鬼頭 宏
単位数（時間数）	2 単位（34 時間）
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	柔道整復学理論編、柔道整復学実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
柔道整復師である講師が接骨院での経験を踏まえ骨折総論について指導をする。柔道整復学の体系の中で骨折は大きな割合を占めており、骨折総論の内容について習熟し、後の骨折各論につないでいきたい。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・骨の形態と機能について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨の働きを5つ示すことができる。 2. 骨の基本的構造について説明できる。 3. 骨リモデリングと骨の新陳代謝について説明できる。 	鬼頭 宏
2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・骨の形態と機能について理解する。 ・骨損傷の概説、特に骨折の定義について理解する。 ・骨損傷の分類の種類について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 引き続き骨の基本構造について説明できる。 2. 骨折の定義が説明できる。 3. 骨損傷に関わる力について説明できる。 4. 骨損傷の分類にはどのようなものがあるか説明できる 	鬼頭 宏
3	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・各骨損傷の分類について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨の性状による分類について説明できる、 2. 骨損傷の程度による分類について説明できる。 3. 骨折線の方向による分類について説明できる。 4. 骨折部と創部の交通の有無による分類について説明できる。 5. 骨折の数による分類について説明でき 	鬼頭 宏

			る。	
4	前期	・各骨損傷の分類について理解する。	1.外力の働いた部位による分類について説明できる。 2. 外力の働き方による分類について説明できる。 3. 骨折の部位による分類について説明できる。 4. 受傷後の経過による分類について説明できる。	鬼頭 宏
5	前期	・骨折の症状の内、骨折の全身症状について理解する。	1. 骨折の症状にはどんなものがあるか説明できる 2. 全身症状には何があるか挙げることができる。 3. ショックの5Pを列挙できる。 4. ショックの応急措置について説明できる。 5. 吸収熱について説明できる。	鬼頭 宏
6	前期	・骨折の症状の内、骨折の局所症状の固有症状について理解する。	1. 異常可動性について説明できる。 2. 軋轢音について説明できる。 3. 転位と変形について説明できる。	鬼頭 宏
7	前期	・骨折の症状の内、骨折の局所症状の一般外傷症状について理解する。	1. 疼痛の3種類について説明できる。 2. 腫脹について説明できる。 3. 機能障害について説明できる。	鬼頭 宏
8	前期	・骨折の合併症の分類について理解する。 ・骨折の合併症の内、併発症について理解する。 ・前半のまとめを行う	1. 骨折の合併症を大まかに3つ挙げ、ど ういうものか説明することが出来る。 2. 併発症を6つ挙げることが出来る。	鬼頭 宏
9	前期	・骨折の合併症の内、続発症について理解する。	1. 続発症について7つ挙げることが出来る。 2. 続発症の7つについてそれぞれ説明できる。	鬼頭 宏
10	前期	・骨折の合併症の内、後遺症について理解する。	1. 後遺症について9つ挙げることが出来る。 2. 後遺症の9つについてそれぞれ祖悦明出来る。	鬼頭 宏

11	前期	・小児骨折の特徴について理解する。	1. 小児骨折の特徴を4つ挙げることが出来る。 2. 骨折の治癒過程での過成長に打ち手説明できる。 3. 診断上の特養について説明できる。 4. 治療上の特徴について説明できる。	鬼頭 宏
12	前期	・高齢者骨折の特徴について理解する。骨折の癒合日数下腿骨骨折 骨幹部骨折について理解する。	1. 高齢者骨折の特徴を4つ挙げることが出来る。 2. 治療上の注意を3つ挙げそれぞれ説明できる。 3. 治療の目標について患者の様子から設定できる。	鬼頭 宏
13	前期	・骨折の癒合日数について理解する。 ・骨折の治癒経過について理解する。	1. 主な四肢の骨折について骨癒合日数が言えるようになる。 2. 骨折の治癒経過、4つの段階が言えるようになる。 3. 4つの段階それぞれを説明できる。	鬼頭 宏
14	前期	・骨折の予後について理解する。	1. 骨折の予後を4つとも列挙できる。	鬼頭 宏
15	前期	・骨折の治癒に影響を与える因子（好適な条件、不適な条件）について理解する。	1. 骨折の治癒に好適な条件を10個挙げることが出来る。 2. 骨折の治癒に不適な条件を10個挙げることが出来る。	鬼頭 宏
16	前期	・骨折の整復法について理解する。	1. 非観血的整復の要点を4つ挙げそれぞれ説明できる。 2. 整復の一般原則について4つ挙げることが出来る。 3. 骨折の整復法を2つ挙げることが出来る。	鬼頭 宏
17	前期	・試験と解説、骨折総論のまとめ	1. 骨折総論の要点をいくつか挙げることが出来る。	鬼頭 宏
成績評価方法		試験により評価する（100%）。		
準備学習など		各項目を学習した後、確認するために当日中に教科書を読んでおくことを勧める。次回に行われる確認問題はその項目のエッセンスであり、習った項目と共に復習してほしい。		

科・年次	柔道整復科
科目名	基礎柔道整復学Ⅱ
担当者	若月 康次
単位数（時間数）	2 単位（34）
学習方法	講義および実技
教科書・参考書	柔道整復学理論編、解剖学、生理学（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的	
<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復の成立について歴史を学び、先達から受け継がれた理論や技術を継承、発展させる意識を持つ。 ・柔道整復師の医療現場での立場、施術限界と医科との連携の重要性を正しく理解する。 ・柔道整復師に欠かせない、痛みのメカニズムの理解と痛みを訴える患者への扱いについて、正しく認識する。 ・脱臼の発生メカニズム、また、それに伴う軟部組織損傷や骨損傷を柔道整復的側面からだけでなく、解剖学的・生理学的側面からも学び、何故そのように施術を行う必要があるのかを理解する。柔道整復師としての臨床経験を活かし授業を行う。 	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進め方（ガイダンス） ・柔道整復術の歴史、都道府県知事免許から国家資格へ、また、他業種との関係性を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当講義での学習方法を理解する。 2. 柔道整復の成立に重要な人物や出来事、資格要件について説明できるようにする。 	若月 康次
2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師の業務範囲(施術限界)と施術の進め方について理解する。 ・適格な判断と医接連携、療養費と受領委任払い制度について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復師の扱える外傷「骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷・軟部組織損傷」を正しく理解し、説明可能にする。 2. 施術限界を知り、医科との連携の取り方、療養費・受領委任払い制度を理解し、説明可能にする。 	若月 康次
3	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の「関節運動」について正しく、医学的および運動学的用語を理解する。 ・医学の共通用語を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二人一組になり、パートナーの行う身体の「関節運動」についてそれぞれ正しく暗唱ができる。 2. パートナーに指示された「関節運動」を正しく行うことができる。 	若月 康次

4	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の「姿勢、肢位」について正しく、医学的および運動学的用語を理解する。 ・医学の共通用語を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二人一組になり、パートナーの行う身体の「姿勢、肢位」についてそれぞれ正しく暗唱ができる。 2. パートナーに指示された「姿勢、肢位」を正しく行うことができる。 	若月 康次
5	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・人体に加わる力学的負荷を理解する。 ・力学的負荷によって身体がどのように損傷するかのメカニズムを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 力学的な視点で、人体の損傷を捉え、骨や関節、軟部組織損傷がどのように発生するのかを説明する。 2. 瞬間的に作用する力学的負荷、反復性あるいは蓄積性に作用する力学的負荷を理解し、説明できる。 	若月 康次
6	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みの基礎①：痛みの定義、分類について理解する。 ・一次求心性ニューロンでどのような現象が起きているかを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際疼痛学会での定義や分類に則って、コンセンサスのある痛みの説明ができる。 2. 侵害刺激の種類について理解し、説明できる。 	若月 康次
7	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みの基礎②：侵害受容器の末端の構造と働き、脊髄への伝達について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 侵害受容器に発現する各侵害刺激に対応するチャネルを説明可能にする。 2. 上記チャネルからの活動電位が脊髄にどのように受容され、また、増強されるかを説明できる。 	若月 康次
8	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みの基礎：脳内での痛みの受容および修飾について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ペインマトリクスを中心に痛みの脳内処理メカニズムについて理解し、説明できる。 2. 痛みを訴える患者への対応について、医療従事者としての姿勢を実演できる。 	若月 康次
9	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・関節構成組織について構造と形態を中心に、柔道整復術への適応を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節構成組織、構造を説明可能にする。 2. どのような補助組織が存在するのかを理解し、損傷へ繋がるかを説明可能にする。 	若月 康次
10	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・関節構成組織の解剖学的知識を用い、どのように損傷するのかについて理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学的な知識を用い、どのように損傷するのかを骨標本模型を用い、グループで学習する。 2. 各グループでどのように関節が損傷に至るのかを話し合い、ディスカッションする。 	若月 康次

11	前期	・関節損傷に伴う、併発症や後遺症を臨床的に理解する。	1. 末梢神経損傷の分類と検査法（筋電図と神経伝導速度）、治癒過程について説明可能にする。 2. 軟骨損傷に続発する変形性関節症について説明可能にする。	若月 康次
12	前期	・脱臼総論①:脱臼の分類について理解する。	1. 各分類（関節の性状、関節面相互の位置、脱臼数）を理解し、小試験（12問中10点以上合格）での合格点を取得する。 2. 落第した場合にはレポートを課す。	若月 康次
13	前期	・脱臼総論②：脱臼の各関節の発生頻度、固有症状と一般外傷症状の相違を理解する。	1. 固有症状を理解し、小試験（10問中8点以上合格）での合格点を取得する。 2. 落第した場合にはレポートを課す。	若月 康次
14	前期	・脱臼総論③：脱臼の合併症について理解する。	1. 脱臼の合併症（骨折、血管、神経、軟部組織、内臓器）について理解し、小試験（10問中8点以上合格）での合格点を取得する。 2. 落第した場合にはレポートを課す。	若月 康次
15	前期	・脱臼総論④：脱臼の整復障害と施術限界について理解する。	1. 脱臼の整復障害（関節包、掌側板、種子骨、軟部組織）について理解し、小試験（10問中8点以上合格）での合格点を取得する。 2. 落第した場合にはレポートを課す。	若月 康次
16	前期	・脱臼総論および痛み学試験 ・試験問題の解説をし、学生は回答の正誤を正しく理解する。	1. 当講義について全般的に理解し、試験（100点中60点以上合格）での合格点を取得する。 2. 誤った設問について、理解を深める。	若月 康次
17	前期	・脱臼総論の国家試験過去出題問題を用いて理解を深める。	1. 過去問題を用いて、実践的な問題形式に触れる。 2. 解説によって当科目の全体的な復習をし、翌年度からの各論への準備をする。	若月 康次
評価方法		試験結果と出席状況により評価する。		
準備学習など				

学科・年次	柔道整復科 1年
科目名	基礎柔道整復学Ⅲ
担当者	秋本 幸祐
単位数(時間数)	2単位(34時間 17コマ)
学習方法	講義(座学)個人並びにグループ学習
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(柔道整復学理論・解剖学・生理学)

授業概要と目的
<p>この科目では柔道整復学理論における軟部組織損傷の基礎たる内容を学習し、2年次における各疾患への内容を深めるための講義を行う。また柔道整復学理論記載内容の解剖を学ぶ為に関節・筋肉・腱・靭帯・神経の知識を監修の解剖学・生理学の教科書も含め構造等の知識を修得する。柔道整復業務を適正に行う為の診察や治療プラン、施術録の扱いについても学んでいき、柔道整復師として、柔道整復の施術所等で臨床経験のある者が、その経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	<ul style="list-style-type: none"> 関節の構造について <p>関節を構成する軟部組織について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関節における構造の種類や軟骨の連結、関節を理解する。 	秋本 幸祐
2	前期	<ul style="list-style-type: none"> 関節の構成組織について 各組織の仕組みについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各組織の仕組みについて講義を行い、必要な知識を要約し、各組織の特徴について知識を修得する。 	秋本 幸祐
3	前期	<ul style="list-style-type: none"> 関節損傷について <p>靭帯損傷の種類、特徴について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関節における損傷の定義と最も損傷靭帯損傷を中心に講義を実施。靭帯損傷の分類において各分類の特徴・症状について学び、知識を修得する。 	秋本 幸祐
4	前期	<ul style="list-style-type: none"> 靭帯治癒機序について <p>各組織における治癒過程の特徴について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 靭帯・関節における治癒機序の仕組みや特徴について必要な知識の理解し国家試験にて出題されたポイントを把握する。 	秋本 幸祐

5	前期	・ 中間テスト① 今まで学んだ内容を修得できているか評価する。	・ 今までの学習範囲で理解度を把握する。	秋本 幸祐
6	前期	・ 筋の構造について 構造について理解を深める。	・ 筋の構造について講義を行い、知識を修得する。	秋本 幸祐
7	前期	・ 筋の構造・損傷について 筋損傷の概要について	・ 前回の講義の復習を行い、学生の知識の習熟度合いを確認する。 筋損傷（筋打撲と肉ばなれ）について概要を理解する。	秋本 幸祐
8	前期	・ 筋損傷の分類について 各分類について理解をする。	・ 各分類の特徴を把握し、特に出題される「筋損傷の程度による分類」や各損傷の特徴を把握し知識を修得する。	秋本 幸祐
9	前期	・ クラッシュシンドロームと筋損傷の治癒機序について理解する。	・ クラッシュシンドロームの特徴の理解しその後で治癒機序について学び、治癒の進行について知識を修得する。	秋本 幸祐
10	前期	・ 中間テスト② 今まで学んだ内容を修得できているか評価する。	・ 今までの学習範囲で理解度を把握する。	秋本 幸祐
11	前期	・ 腱の構造と機能について 腱損傷の仕組みについて知る。	・ 腱の構造と機能を理解し、腱損傷の仕組みや特徴を把握し、特に出題される「損傷の程度による分類」などの知識を修得する。	秋本 幸祐
12	前期	・ 神経の構造と機能 神経の仕組みについて知る。	・ 中枢神経・末梢神経の特徴を把握することを重点に学習を行い、また末梢神経線維の特徴についても知識を修得する。	秋本 幸祐
13	前期	・ 前回の講義の復習 ・ 神経の構造と機能・分類	・ 前回の講義の復習を行い、習熟度を確認する。また セドン・サンダーランドの分類を中心に講義を行い、知識を修得する。	秋本 幸祐
14	前期	・ 前回の講義の復習 ・ 末梢神経損傷の症状、治癒過程について	・ 前回の講義の復習を行い、学生の知識の習熟度を確認する。 末梢神経の症状と治癒過程について要約した内容を学び知識を修得する。	秋本 幸祐

15	前期	<ul style="list-style-type: none"> 診察・治療・施術録 	<ul style="list-style-type: none"> 診察における基礎的な内容を学び、必要事項を覚える。また施術録に関する簡単なルールについても学び、知識を修得する。 	秋本 幸祐
16	前期	<ul style="list-style-type: none"> 指導管理 各指導管理について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における指導管理や固定後の指導管理について学び、知識を修得する。 	秋本 幸祐
17	前期	<ul style="list-style-type: none"> 本試験 フィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの確認を行う。 テストを返却し、解説を行い、今後の国家試験を受けるにあたり何が重要であるかを考察する。 	秋本 幸祐
成績評価方法		2回の中間テストと授業始めに行う確認テストを平均し、4割を反映する。本試験は100点満点中6割を反映し合計する。		
準備学習など		各講義において柔道整復学を中心に行うがそれに絡む解剖学・生理学・運動学を含め講義を進行するため、事前に予習と復習を行っておく。		

学科・年次	柔道整復科・1学年
科目名	臨床柔道整復学 I A
担当者	鈴木 雅夕
単位数（時間数）	2単位（34時間）
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	柔道整復学 理論編・実技編（全国柔道整復学校協会編・南江堂）・整形外科学

授業概要と目的
柔道整復師としての臨床経験を活かし、柔道整復師が扱う外傷疾患には骨折・脱臼・打撲・捻挫等があります。ここでは骨折の中で頭部・体幹の骨折について、理論と治療法などを体系的に学んでいきます。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	頭部損傷 1. 「頭蓋骨骨折：頭蓋冠骨折」	・頭部外傷について柔道整復師が関わる場合に最低限知っておくべき知識を理解する。	鈴木
2	後期	2. 「頭蓋冠骨折」 1. 「頭蓋底骨折」	・頭部外傷について柔道整復師が関わる場合に最低限知っておく知識と、扱うかどうかの限界点を理解する。	鈴木
3	後期	2. 「頭蓋底骨折」 1. 「顔面頭蓋骨折」	・頭部外傷について柔道整復師がどう関わっていくかを理解する。	鈴木
4	後期	2. 「顔面頭蓋骨折」	・顔面頭蓋骨折の合併症・後遺症を理解する。	鈴木
5	後期	1. 「胸骨骨折」	・胸骨の役割、発生機序を理解する。	鈴木

6	後期	2.「胸骨骨折」 1.「肋骨・肋軟骨骨折」	・胸骨骨折の治療法、合併症について理解する。 ・肋骨の構造を理解する	鈴木
7	後期	2.「肋骨・肋軟骨骨折」	・肋骨の役割、構造から発生機序を理解する。	鈴木
8	後期	3.「肋骨・肋軟骨骨折」	・肋骨骨折の合併症、治療法について理解する。	鈴木
9	後期	まとめ・確認テスト	・頭部の骨折、胸郭の骨折について理解度を図る。	鈴木
10	後期	脊柱について	・頸椎・胸椎・腰椎の構造の違いを理解する。 ・脊柱の役割を理解する。	鈴木
11	後期	「上部頸椎骨折」	・構造的特徴から発生しやすい骨折を理解する。	鈴木
12	後期	「中・下部頸椎の骨折」	・構造的特徴から発生しやすい骨折を理解する。	鈴木
13	後期	「胸椎の骨折」	・胸椎の役割、外力の加わり方から発生しやすい骨折を理解する。	鈴木
14	後期	1.「胸腰椎移行部骨折」	・部位、発生年齢、基礎的疾患などから骨折について理解する。	鈴木

15	後期	2.「胸腰椎移行部骨折」	・治療法、後療法を理解する。	鈴木
16	後期	「腰椎の骨折」	・腰椎の役割、他の脊椎との違いから発生しやすい骨折を理解する。	鈴木
17	後期	試験とまとめ	試験と解説を行い頭部・体幹の骨折について総括する。	鈴木
成績評価方法		試験（2回）による成績（100点）により評価する。		
準備学習など		教科書に沿って作成したサブノートを使用して授業を行う。講義が終わっても国家試験対策の資料として活用できる。		

学科・年次	柔道整復科 1年次
科目名	臨床柔道整復学 I C
担当者	鬼頭 宏
単位数（時間数）	2 単位（34 時間）
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	柔道整復学理論編、柔道整復学実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
柔道整復師である講師が、接骨院での経験を踏まえ下肢の骨折の各論について指導をする。柔道整復学の体系の中で骨折は大きな割合を占めており、骨折総論の内容を復習しながら、下肢の骨折について習熟していきたい。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	・ガイダンス ・骨盤骨骨折 骨盤骨単独骨折について理解する。	1. 骨盤部の解剖、特に骨の基本構造や筋の付着について説明できる。 2. 骨盤部の単独骨折、裂離骨折について説明できる。	鬼頭 宏
2	後期	・骨盤骨骨折 骨盤骨輪骨折について理解する。	1. 骨盤環骨折、2重骨折について説明できる。	鬼頭 宏
3	後期	・大腿骨骨折 近位端部骨折について理解する。	1. 大腿骨部の解剖、特に骨の基本構造、頸体角、前捻角、大腿骨頭への血行について説明できる、 2. 大腿骨近位端部の骨折を骨折線の入り方により分類できる。 3. 大腿骨骨頭部の骨折について説明できる。 4. 大腿骨頸部骨折の分類について説明できる。	鬼頭 宏
4	後期	・大腿骨骨折 近位端部骨折について理解する。	1. 大腿骨頸部骨折について説明できる。 2. 大腿骨転子部骨折について説明できる。 3. 大転子骨折、小転子骨折について説明できる。	鬼頭 宏

5	後期	・大腿骨骨折 骨幹部骨折について理解する。	1. 大腿骨骨幹部骨折の分類について筋の作用や、骨片転位を説明できる。 2. 大腿骨骨幹部骨折について説明できる。	鬼頭 宏
6	後期	・大腿骨骨折 遠位端部骨折について理解する。	1. 大腿骨遠位端部骨折を分類できる。 2. 大腿骨遠位端部骨折のそれぞれの分類について説明できる。	鬼頭 宏
7	後期	・大腿骨骨折 遠位端部骨折について理解する。	1. 大腿骨遠位端部骨折のそれぞれの分類について説明できる。	鬼頭 宏
8	後期	・下腿骨骨折 近位端部骨折について理解する。 ・前半のまとめを行う	1. 膝回りの基本構造について説明できる。 2. 下腿骨近位端部骨折を分類できる。 3. 下腿骨近位端部骨折の各分類について説明できる。	鬼頭 宏
9	後期	・下腿骨骨折 近位端部骨折について理解する。	1. 下腿骨近位端部骨折についてそれぞれ説明できる。	鬼頭 宏
10	後期	・膝蓋骨骨折 分裂膝蓋骨について理解する。	1. 膝蓋骨骨折について説明できる。 2. 有痛性分裂膝蓋骨について分類し、説明できる。	鬼頭 宏
11	後期	・下腿骨骨折 骨幹部骨折について理解する。	1. 下腿骨骨幹部骨折の単独骨折、両骨骨折について説明できる。 2. 腓骨単独骨折について説明できる。	鬼頭 宏
12	後期	・下腿骨骨折 骨幹部骨折について理解する。	1. 下腿骨果上骨折について説明できる。 2. 下腿骨の疲労骨折について2つの型に分類し師説明できる。	鬼頭 宏
13	後期	・下腿骨骨折 遠位端部骨折について、分類による違いについて理解する。	1. 下腿骨遠位端部骨折の果部骨折の4つの分類について説明できる。	鬼頭 宏
14	後期	・下腿骨骨折 遠位端部骨折について理解する。	1. 果部骨折の外転型骨折について説明できる。	鬼頭 宏
15	後期	・下腿骨骨折 遠位端部骨折について理解する。	1. 果部骨折の内転型骨折について説明できる。	鬼頭 宏
16	後期	・下腿骨骨折 遠位端部骨折について理解する。	1. 果部骨折の軸圧型骨折について説明できる。	鬼頭 宏

17	後期	・試験と解説、下肢の骨折のまとめ	1. 下肢の骨折のそれぞれの要点について いくつか挙げ説明できる。	鬼頭 宏
成績評価方法		科目試験により評価する（100%）。		
準備学習など		各項目を学習した後、確認するために当日中に教科書を読んでおくことを勧める。次回に行われる確認問題はその項目のエッセンスであり、習った項目と共に復習してほしい。		

学科・年次	柔道整復科 1年次
科目名	臨床柔道整復学Ⅳ
担当者	鬼頭 宏 小島 一政
単位数（時間数）	2単位（34時間）
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	柔道整復学理論編、生理学（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
<p>柔道整復師である講師が、接骨院での経験を踏まえ物理療法について指導をする。柔道整復学の体系の中で後療法について学び、物理療法がどのような役割を担っているかを理解する。また物理療法の種類や適応、禁忌について理解し、実際に運用できるようにする。物理エネルギーについて、またそれが生体へ与える影響について理解するには生理学や基礎的な物理（電気について）の知識が求められる。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	<ul style="list-style-type: none"> 柔道整復術における後療法の位置づけと、後療法として行われている物理療法について理解する 手技療法1：手技療法について総論を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 柔道整復術における後療法について説明できる 後療法の中の物理療法の位置づけについて説明できる。 手技療法の基本的な考え方やアレントシュルツの法則が説明できる。 	鬼頭 宏 小島一政
2	前期	<ul style="list-style-type: none"> 手技療法2：手技療法の基本型や適用、禁忌について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 手技療法の各基本形についてどのような手技かどういった部位に用いるか説明できる 手技療法の適用や禁忌について説明できる。 	鬼頭 宏 小島一政
3	前期	<ul style="list-style-type: none"> 運動療法1：運動療法の総論を理解する。運動の基本形について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 運動療法を施行する際に配慮することについて説明できる。 運動の基本形を大まかに2つに分類し、分類したうちの運動について説明できる。 	鬼頭 宏 小島一政
4	前期	<ul style="list-style-type: none"> 運動療法2：引き続き運藤の基本形について理解する。運動療法の種類について理解する。運 	<ol style="list-style-type: none"> 運動について単関節運動と多関節運動について区別し各々説明できる。 運動療法にはどのようなものがあるか 	鬼頭 宏 小島一政

		動療法の適応や禁忌について理解する。	説明できる。 3. 運動療法の適用や禁忌について説明できる。	
5	前期	・物理療法の総論を理解する。 ・電気療法1：電気療法の総論について理解する。特に物理学的な側面について理解する。	1. 柔道整復で用いる物理療法を分類できる。 2. 物理療法を用いるうえでの安全対策について説明できる 3. 電気刺激の3つの要素について説明できる。	鬼頭 宏 小島一政
6	前期	・電気療法2：低周波電気刺激療法について理解する。	1. 低周波について説明しどのような刺激波形が用いられているか説明できる。 2. 低周波刺激療法にはどんな治療法があるか説明できる。 3. 低周波電気刺激療法の効果や禁忌について説明できる。	鬼頭 宏 小島一政
7	前期	・電気療法3：中周波電流療法について理解する。	1. 中周波について説明しどのような刺激波形が用いられているか説明できる。 2. 干渉波療法の仕組みについて説明できる 3. 効果としての遠心性効果と求心性効果がどのようなものか説明できる。 4. 中周波電流療法の禁忌について説明できる	鬼頭 宏 小島一政
8	前期	・温熱療法1：温越療法の総論について理解する。伝導熱療法について特にホットパック療法について理解する。	1. 温熱療法の歴史的背景や定義について説明できる。 2. 伝導熱療法とは何か説明できる。 3. ホットパック療法の使用法や、効果、禁忌について説明できる。	鬼頭 宏 小島一政
9	前期	・温熱療法2：伝導熱療法について特にパラフィン浴、水治療法について理解する。	1. パラフィン浴とは何か概説できる。 2. パラフィン浴の使用法や、効果、禁忌について説明できる。 3. 水治療法の使用法や、効果、禁忌について説明できる。	鬼頭 宏 小島一政
10	前期	・温熱療法3：輻射熱療法について特に赤外線療法について理解	1. 輻射熱療法とは何か説明できる。 2. 赤外線療法に使用法、効果、禁忌につ	鬼頭 宏 小島一政

		<p>する。変換熱療法について特に超短波療法、極超短波療法について理解する。</p>	<p>いて説明できる。</p> <p>3. 変換熱療法とは何か説明できる。</p> <p>4. 超短波療法について説明できる。</p> <p>5. 極超短波療法について使用法、効果、禁忌について説明できる。</p>	
11	前期	<p>・温熱療法 4：変換熱療法について特に超音波療法について理解する。</p>	<p>1. 超音波療法の仕組みと作用について説明できる。</p> <p>2. 超音波療法の使用法、効果、禁忌について説明できる。</p>	<p>鬼頭 宏</p> <p>小島一政</p>
12	前期	<p>・光線療法の総論について理解する。光線療法のうち低反応レベルレーザー療法について理解する。</p>	<p>1. 光線とは何か、レーザーとは何か性質も含め説明できる。</p> <p>2. 低反応レベルレーザー療法について使用法、効果、禁忌について説明できる。</p>	<p>鬼頭 宏</p> <p>小島一政</p>
13	前期	<p>・寒冷療法 1：寒冷療法の総論について理解する。</p>	<p>1. 寒冷療法の生体反応について、組織、循環、神経・筋、代謝、関節、筋力にどのような影響があるか説明できる。</p> <p>2. 寒冷療法を分類できる。</p>	<p>鬼頭 宏</p> <p>小島一政</p>
14	前期	<p>・寒冷療法 2：寒冷療法の種類と各療法について理解する。</p>	<p>1. 伝導冷却法には何があるか。またどういったものが用いられるか説明できる。</p> <p>2. アイスバックなどの使用法、効果、禁忌について説明できる。</p> <p>3. 対流冷却法にはどんな療法がありどのように用いられているか説明できる。</p> <p>4. 気化冷却法で用いられるものには何があり、どの様に用いられているか説明できる。</p>	<p>鬼頭 宏</p> <p>小島一政</p>
15	前期	<p>・牽引療法 1：牽引療法の総論について理解する。牽引療法のうち、頸椎介達牽引について理解する。</p>	<p>1. 牽引療法が効果を得るのに必要な要素について説明できる。</p> <p>2. 柔道整復師が用いることが出来る牽引療法には何があるか説明できる。</p> <p>3. 頸椎介達牽引について使用法、効果、禁忌について説明できる。</p>	<p>鬼頭 宏</p> <p>小島一政</p>
16	前期	<p>・牽引療法 2、その他：牽引療法のうち、腰椎介達牽引について理解する。</p> <p>その他の療法特に間欠的圧迫法について理解する。</p>	<p>1. 腰椎介達牽引について使用法、効果、禁忌について説明できる。</p> <p>2. 間欠的圧迫法についてどのような治療法か、使用法、効果、禁忌について説明できる。</p>	<p>鬼頭 宏</p> <p>小島一政</p>

		接骨院で使用されているが、教科書にない物理療法機器について示す。	3. 接骨院で使用されている物理療法機器で教科書にないものも紹介できる。	
17	前期	テスト、物理療法総括	試験と解説を行い物理療法について総括説明する。	鬼頭 宏 小島一政
成績評価方法		試験により評価する（100%）。		
準備学習など		物理療法全般にわたり、痛みについて、神経、筋、皮膚などのほか基本的な生理学の知識が必要となる。そのため生理学の教科書持参が望ましい。5回目の電気療法の部分については中学高校で習う電気の性質についての知識を整理しておくとう理解しやすい。		

学科・年次	柔道整復科・1年生
科目名	基礎実技 I
担当者	北村 次郎
単位数（時間数）	2単位（68時間 34コマ 前期）
学習方法	講義及び実技
教科書・参考書	包帯固定学（公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂）

授業概要と目的
<p>柔道整復師の施術（治療法）の基礎となる包帯の巻き方、固定材料の使い方を主に習得する。実習では、包帯固定学の基礎的な知識と技能を修得することを目標とするとともに、臨床において安全でかつ清潔に配慮した包帯・固定を速やかに施術するためにはどのように配慮するべきかを各自が勘案できるように繰り返し練習しながら進めていく。</p> <p>また、実習では障害者心理の理解に努め、傷病により精神的にも傷つき不安を抱く患者様やご家族様の気持ちを考え対峙できるように、医療に関わるスタッフの一員としての素養（姿勢や態度）を学ぶ。</p> <p>担当講師は整形外科やリハビリテーション科で実務経験のある柔道整復学専科教員（柔道整復師・理学療法士）が、日頃の臨床経験を踏まえ、包帯・固定についての基礎となる知識や技能と医療人としての姿勢や心構えを指導する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	1. ガイダンス（座学） 包帯固定学について、カリキュラムの履修方法を理解する。 固定の目的や固定材料の基礎的知識について学ぶ。	1. ガイダンスにより、柔道整復師の施術について知ってもらうことと、1年間の到達目標知ってもらう。 2. 固定について、その目的を説明できる。 また、固定に使用する材料を説明できる。	北村次郎
2	通年	2. 包帯の巻き方と注意事項（座学）	1. 包帯の基本の巻き方の説明ができる。 2. 包帯を巻くにあたり、その注意事項を説明できる。	北村次郎
3	通年	2. 上肢の基本包帯 1（実技） 上肢の基本包帯（前腕・肘関節） について学ぶ。	1. 前腕・肘関節の基本包帯（環行帯、螺旋帯、麦穂帯、折転帯、亀甲帯）が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。	北村次郎
4	通年	3. 上肢の基本包帯 2（実技）	1. 前腕・肘関節の基本包帯（環行帯、螺旋帯、麦穂帯、折転帯、亀甲帯）が施行できるようになる。	北村次郎

		<p>上肢の基本包帯（前腕・肘関節）</p> <p>について学ぶ。</p>	<p>2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。</p>	
5	通年	<p>4. 上肢基本包帯 3（実技）</p> <p>上肢の基本包帯（前腕・肘関節）</p> <p>について学ぶ。</p>	<p>1. 前腕・肘関節の基本包帯（環行帯、螺旋帯、麦穂帯、折転帯、亀甲帯）が施行できるようになる。</p> <p>2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。</p>	北村次郎
6	通年	<p>5. 上肢の基本包帯 4（実技）</p> <p>上肢の基本包帯（前腕・肘関節）</p> <p>について学ぶ。</p>	<p>1. 前腕・肘関節の基本包帯（環行帯、螺旋帯、麦穂帯、折転帯、亀甲帯）が施行できるようになる。</p> <p>2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。</p>	北村次郎
7	通年	<p>6. 上肢の基本包帯 5（実技）</p> <p>上肢の基本包帯（前腕・肘関節）</p> <p>について学ぶ。</p> <p>（上肢の基本包帯の評価）</p>	<p>1. 前腕・肘関節の基本包帯（環行帯、螺旋帯、麦穂帯、折転帯、亀甲帯）が施行できるようになる。</p> <p>2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。</p> <p>3. 上肢の基本包帯の中から課題を出し評価する。（評価方法については別途記載）</p>	北村次郎
8	通年	<p>7. 上肢の基本包帯 6（実技）</p> <p>上肢の基本包帯（前腕・肘関節）</p> <p>について学ぶ。</p> <p>（上肢の基本包帯の評価）</p>	<p>1. 上肢の基本包帯で各部位ごとに包帯の施行ができるようになるだけでなく、連続して包帯の施行ができるようになる。</p> <p>2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。</p> <p>3. 上肢の基本包帯の中から課題を出し評価する。（評価方法については別途記載）</p>	北村次郎
9	通年	<p>8. 上肢の基本包帯 7（実技）</p> <p>上肢の基本包帯（手指・手関節）</p> <p>について学ぶ。</p>	<p>1. 手指・手関節の基本包帯（麦穂帯、全指帯、ほうか帯）が施行できるようになる。</p> <p>2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。</p>	北村次郎
10	通年	<p>10. 上肢の基本包帯 8（実技）</p> <p>上肢の基本法帯（手指・手関節）</p> <p>について学ぶ。</p>	<p>1. 手指・手関節の基本包帯（麦穂帯、全指帯、ほうか帯）が施行できるようになる。</p> <p>2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。</p>	北村次郎

11	通年	11. 上肢の基本包帯 9 (実技) 上肢の基本法帯(手指・手関節)について学ぶ。 (上肢の基本包帯の評価)	1. 手指・手関節の基本包帯(麦穂帯、全指帯、ほうか帯)が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。 3. 上肢の基本包帯の中から課題を出し評価する。(評価方法については別途記載)	北村次郎
12	通年	12. 上肢の基本包帯 10 (実技) 上肢の基本法帯(手指・手関節)について学ぶ。 (上肢の基本包帯の評価)	1. 上肢の基本包帯で各部位ごとに包帯の施行ができるようになるだけでなく、連続して包帯の施行ができるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。 3. 上肢の基本包帯の中から課題を出し評価する。(評価方法については別途記載)	北村次郎
13	通年	13. 下肢の基本包帯 1 (実技) 下肢の基本包帯(足関節・下腿・膝関節)について学ぶ。	1. 足関節・下腿・膝関節の基本包帯(環行帯、螺旋帯、麦穂帯、折転帯、亀甲帯)が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。	北村次郎
14	通年	14. 下肢の基本包帯 2 (実技) 下肢の基本包帯(足関節・下腿・膝関節)について学ぶ。	1. 足関節・下腿・膝関節の基本包帯(環行帯、螺旋帯、麦穂帯、折転帯、亀甲帯)が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。	北村次郎
15	通年	15. 下肢の基本包帯 3 (実技) 下肢の基本包帯(足関節・下腿・膝関節)について学ぶ。	1. 足関節・下腿・膝関節の基本包帯(環行帯、螺旋帯、麦穂帯、折転帯、亀甲帯)が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。	北村次郎
16	通年	16. 下肢の基本包帯 4 (実技) 下肢の基本包帯(足関節・下腿・膝関節)について学ぶ。 (下肢の基本包帯の評価)	1. 足関節・下腿・膝関節の基本包帯(環行帯、螺旋帯、麦穂帯、折転帯、亀甲帯)が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。 3. 下肢の基本包帯の中から課題を出し評価する。(評価方法については別途記載)	北村次郎

17	通年	17. 下肢の基本包帯 5 (実技) 下肢の基本包帯 (前足部・足関節・下腿) について学ぶ。	1. 前足部・足関節・下腿・の基本包帯 (環行帯、螺旋帯、麦穂帯、亀甲帯、三角帯) が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。	北村次郎
18	通年	18. 下肢の基本包帯 6 (実技) 下肢の基本包帯 (前足部・足関節・下腿) について学ぶ。 (下肢の基本包帯の評価)	1. 前足部・足関節・下腿の基本包帯が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。 3. 下肢の基本包帯で各部位ごとに包帯の施行ができるようになるだけでなく、連続して包帯の施行ができるようになる。 4. 下肢の基本包帯の中から課題を出し評価する。(評価方法については別途記載)	北村次郎
19	通年	19. 肩の基本包帯 1 (実技) 肩の基本包帯 (上行麦穂帯・下行麦穂帯) について学ぶ。	1. 上腕・肩関節の基本包帯 (上行麦穂帯・下行麦穂帯) が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。	北村次郎
20	通年	20. 肩の基本包帯 2 (実技) 肩の基本包帯 (上行麦穂帯・下行麦穂帯) について学ぶ。	1. 上腕・肩関節の基本包帯 (上行麦穂帯・下行麦穂帯) が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。	北村次郎
21	通年	21. 肩の基本包帯 3 (実技) 肩の基本包帯 (上行麦穂帯・下行麦穂帯) について学ぶ。 (下肢の基本包帯の評価)	1. 上腕・肩関節の基本包帯 (上行麦穂帯・下行麦穂帯) が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。 3. 上肢の基本包帯の中から課題を出し評価する。(評価方法については別途記載)	北村次郎
22	通年	22. 肩の基本包帯 4 (実技) 肩の基本包帯 (上行麦穂帯・下行麦穂帯) について学ぶ。 (下肢の基本包帯の評価)	1. 上腕・肩関節の基本包帯 (上行麦穂帯・下行麦穂帯) が施行できるようになる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。 3. 上肢の基本包帯で各部位ごとに包帯の施行ができるようになるだけでなく、連続して包帯の施行ができるようになる。 4. 上肢の基本包帯の中から課題を出し評価する。(評価方法については別途記載)	北村次郎

23	通年	23. 冠名包帯 1 (実技) ウエルボー包帯について学ぶ。	1. ウエルボー包帯が施行できる ように なる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる 3. 各冠名包帯の目的を知ること、包帯・固定について考え、実際の固定をする際に、自分なりに考えられるようになる	北村次郎
24	通年	24. 冠名包帯 2 (実技) ウエルボー包帯について学ぶ。 (冠名包帯の評価)	1. ウエルボー包帯が施行できる ように なる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる 3. 各冠名包帯の目的を知ること、包帯・固定について考え、実際の固定をする際に、自分なりに考えられるようになる。	北村次郎
25	通年	25. 冠名包帯 3 (実技) ジュール包帯について学ぶ。	1. ジュール包帯が施行できるように なる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる 3. 各冠名包帯の目的を知ること、包帯・固定について考え、実際の固定をする際に、自分なりに考えられるようになる。	北村次郎
26	通年	26. 冠名包帯 4 (実技) ジュール包帯について学ぶ。 (冠名包帯の評価)	1. ジュール包帯が施行できるように なる。 2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる 3. 各冠名包帯の目的を知ること、包帯・固定について考え、実際の固定をする際に、自分なりに考えられるようになる。	北村次郎
27	通年	27. 冠名包帯 5 (実技)	1. デゾー包帯が施行できるように なる。	北村次郎

		デゾー包帯について学ぶ。	<p>2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる</p> <p>3. 各冠名包帯の目的を知ること、包帯・固定について考え、実際の固定をする際に、自分なりに考えられるようになる。</p>	
28	通年	<p>28. 冠名包帯6 (実技)</p> <p>デゾー包帯について学ぶ。 (冠名包帯の評価)</p>	<p>1. デゾー包帯が施行できるようになる。</p> <p>2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。</p> <p>3. 各冠名包帯の目的を知ること、包帯・固定について考え、実際の固定をする際に、自分なりに考えられるようになる。</p>	北村次郎
29	通年	<p>29. 冠名包帯7 (実技)</p> <p>冠名包帯の評価まとめ。</p>	<p>1. 各冠名包帯の中から課題を出し評価する。</p> <p>2. 包帯を施行する際の注意事項を説明できる。</p> <p>3. 冠名包帯の課題を出し評価する。 (評価方法については別途記載)</p>	北村次郎
30	通年	<p>30. 冠名包帯と三角巾 (実技)</p> <p>三角巾提肘とその応用について学ぶ。</p>	<p>1. 三角巾での提肘ができる。</p> <p>2. 三角巾を応用して施行することができるようになる。</p>	北村次郎
31	通年	<p>31. 冠名包帯と三角巾 (まとめ)</p>	<p>1. 三角巾での提肘ができる。</p> <p>2. 三角巾を応用して施行することができるようになる。</p> <p>3. 冠名包帯と三角巾の中から課題を出し評価する。(評価方法については別途記載)</p>	北村次郎
32	通年	<p>32. 固定材料の作成と固定例</p> <p>副子固定 (座学) について学ぶ。</p>	<p>1. 副子について、その種類と使用方法を知り、知要する際の目的を説明できる。</p> <p>①厚紙副子 ②スダレ副子 ③厚紙副子</p>	北村次郎

			④クラーメル副子 ⑤アルミ副子 ⑥その他の材料等 3. 副子を使つての固定を実際に施行することで、各副子の特性を説明する。	
33	通年	33.試験（評価） 定期試験	1. 包帯固定学のまとめとして筆記試験を行い、包帯固定についての説明ができることを確認する。	北村次郎
34	通年	34.包帯固定（総括）	1. 筆記試験を基に包帯固定の解説をして総合的に包帯固定に関する説明ができるようにする。	北村次郎
成績評価方法		1. 包帯固定学は、包帯による実技試験を行う。実技評価は上肢複合1項目、手指3項目、下肢複合2項目、肩2項目、冠名包帯3項目を単元毎に実施、1単元を100点満点して、合計点の平均を実技点とする。 2. 筆記試験は、記述式あるいは4択問題等の問題で100点満点の試験を行う。 3. 1と2の合計点数の平均により最終評価とする。 4. 適宜レポート課題を設け提出を義務付けることがある、内容によって評価の一部を補填する場合がある。		
準備学習など		1. 効率の良い実習が行えるように常に優先順位を考え、クラス全員で協力し、クラスメイトや練習相手への配慮を忘れず真摯な態度で臨むこと。 2. 実技の授業である、指示に留意し、5分前行動を意識して、授業前に準備（ベッドの配置変え、着替え、トイレ、衛生用具、包帯巻き器、上下肢台設置など）を済ませて着席のこと。 3. 臨床を意識して清潔を心がけ、白衣、名札、内履きを忘れないこと。また、授業中は装飾品を外し、髪が邪魔にならないようにピンでとめるなど身だしなみには注意を払うこと。目に余る場合は指導を行う場合がある。 4. 包帯等の実技に使用するものは、自己管理すること。		

学科・年次	柔道整復科
科目名	形態機能学実習
担当者	近藤英隆
単位数(時間数)	2単位(68時間34コマ)
学習方法	実技ならびに講義(座学・ビデオ鑑賞・デモンストレーション)、個人ならびにグループ実習
教科書・参考書	公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書(解剖学) 医歯薬 出版 .プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論/運動器系) 坂井&松村監訳 医学書院

授業概要と目的
<p>柔道整復師として経験のある教員が担当する。</p> <p>【何を学ぶか / Outline and objectives】</p> <p>11 ある器官系のなかで、運動器系(骨 格系、筋系、関節・靭帯・筋の支配神経)に重きをおきながら、その基本構造を学ぶ。</p> <p>【到達目標 / Goal】</p> <p>学生が将来、柔道整復師になるために必要な人体の解剖学的実践知識を習得することが主要目標である。ヒト全身骨格の基本構造を理解し、特に上肢と下肢の関節の構造を理解し、説明できるようになる。ヒト全身の筋肉の概要を理解し、特に上肢と下肢の筋の作用を理解し、説明できるようになる。運動器以外の器官系の構造と位置関係を理解し、説明できるようになる。</p> <p>【授業の進め方 / Method】</p> <p>パワーポイントやDVDを使用し、骨学実習にはスケッチブックを使い課題をこなす。筋系、関節・靭帯について生体観察を行う。筋の支配神経については模型を作り理解する、生体を使い神経学的なテストを行い理解を深める</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	ガイダンス ・柔道整復師としての形態機能	科目の紹介 科目の目的 ・運動器の構成について勉強方法を解説 身体構造を系統的に捉えられるとともに局所的な位置関係も知る。 ・情報の共有に 重要な固有名称(用語)について知る	近藤英隆
2	通年	骨学 1 ・骨の役割について理解を深める	骨の役割 骨の形状と分類 ・骨の形状と分類について理解する	近藤英隆

3	通年	骨学2 ・骨の構造について理解を深める	骨の構造 ・組織学的に骨の構造を理解する	近藤英隆
4	通年	骨学3 ・骨の発生と成長について理解を深める	骨の発生と成長 ・発生学の観点から骨の成長について理解する	近藤英隆
5	通年	運動学の基礎 ・人体の運動方向について定義を理解を深める	運動方向の用語と定義 ・柔道整復師として臨床に出た時に、用語の説明が定義づけして理解できるようにする	近藤英隆
6	通年	上肢骨学（肩甲骨・鎖骨） ・肩甲骨と鎖骨の形態について理解を深める ・臨床で役立つ機能について理解を深める。	肩甲骨・鎖骨の形態機能 ・肩甲骨と鎖骨を体表上に触って理解できる	近藤英隆
7	通年	上肢関節学（胸鎖関節・肩鎖関節） ・胸鎖関節と肩鎖関節の形態について理解を深める	胸鎖関節・肩鎖関節の形態機能 ・臨床で役立つ機能について理解を深める 体表上に触って理解できる	近藤英隆
8	通年	上肢関節学（肩関節） ・上腕骨の骨の形態について理解を深める	肩関節の形態機能 ・肩関節の構造と機能について理解する 体表上に触って理解できる	近藤英隆
9	通年	上肢筋学（上肢帯） ・上肢帯筋の形態について理解を深める	上肢帯の筋（浅背筋）の形態機能 ・肩関節の運動機能について理解する 体表上に触って理解できる	近藤英隆
10	通年	上肢筋学（上腕部） ・上腕筋の形態について理解を深める	上腕の筋の形態機能 ・肩関節の機能解剖について理解する 体表上に触って理解できる	近藤英隆
11	通年	上肢の運動学（肩関節） ・肩関節の靭帯、関節包など関節構造と機能について理解を深める	関節構造との形態機能肩 ・関節の靭帯、関節包などについて説明出来るようになる ・臨床に役立つように肩関節の運動を理解する ・体表上に触って理解できる	近藤英隆

12	通年	上肢骨学（前腕骨） ・橈骨、尺骨の形態について理解を深める	前腕骨の形態機能 ・橈骨、尺骨構造と機能について理解する 体表上に触って理解できる	近藤英隆
13	通年	上肢関節学（肘関節 遠位橈尺関節） ・肘関節の骨や靭帯の形態について理解を深める	肘関節 遠位橈尺関節の形態機能 ・遠位橈尺関節の構造と機能について理解する 体表上に触って理解できる	近藤英隆
14	通年	上肢筋学（前腕部） ・前腕筋の形態について理解を深める	前腕の筋の形態機能 ・肘関節と手関節の機能解剖について理解する ・体表上に触って理解できる	近藤英隆
15	通年	上肢関節運動学（肘関節） ・肘関節の靭帯、関節包など関節構造と機能について理解を深める	肘関節の運動機能 ・臨床に役立つように肘関節の運動を理解する ・体表上に触って理解できる	近藤英隆
16	通年	上肢骨学（手部） ・骨や靭帯の形態について理解を深める	手の形態機能 ・手の骨・手の関節指骨、中手骨、手根骨の手根と前腕骨の関節の構造と機能について理解する ・体表上に触って理解できる	近藤英隆
17	通年	上肢関節学（指関節 手関節） ・手の筋の形態について理解を深める	指関節と手関節の形態機能 ・指関節と手関節の機能解剖について理解する ・体表上に触って理解できる	近藤英隆
18	通年	手関節の運動学 ・手関節の靭帯、関節包など関節構造と機能について理解を深める	手関節の形態機能 ・臨床に役立つように手関節の運動を理解する ・体表上に触って理解できる	近藤英隆
19	通年	上肢の神経学 ・腕神経叢から末梢に至る神経のつながりについて理解を深める	腕神経叢の形態 ・体表域に神経の走行がイメージできる ・体表上に触って理解できる	近藤英隆
20	通年	上肢の神経学 ・腕神経叢から末梢に至る神経のつながりについて理解を深める	腕神経叢から末梢に至る神経の形態 ・筋肉の神経支配と皮膚の知覚神経領域について理解を深める ・体表上に触って理解できる	近藤英隆

21	通年	<p>下肢骨学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寛骨（腸骨、坐骨、恥骨）骨盤周囲の骨の連絡について理解を深める 	<p>寛骨（腸骨、坐骨、恥骨）の形態機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体表上に触って理解できる ・体表上に触って理解できる 	近藤英隆
22	通年	<p>下肢骨学（大腿骨・股関節）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨の骨構造を理解し、股関節の靭帯、関節包など関節構造と機能について理解を深める 	<p>大腿骨と股関節の機能解剖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床に役立つように肘関節の運動を理解する ・体表上に触って理解できる 	近藤英隆
23	通年	<p>下肢筋学（骨盤周囲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨盤の機能解剖と大腿部の筋の理解を深める 	<p>骨盤—大腿の筋の機能解剖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨盤、股関節運動に関わる機能解剖を理解する ・体表上に触って理解できる 	近藤英隆
24	通年	<p>下肢運動学（股関節）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・股関節の運動機能について理解を深める 	<p>股関節の機能解剖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床に役立つように股関節の運動を理解する ・体表上に触って理解できる 	近藤英隆
25	通年	<p>下肢骨学（膝蓋骨・下腿骨）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝蓋骨、脛骨、腓骨の骨形態について理解を深める 	<p>膝蓋骨・下腿骨の形態機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝蓋大腿関節と大腿脛骨関節の構造と機能について理解する ・体表上に触って理解できる 	近藤英隆
26	通年	<p>下肢関節学（膝関節）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝関節の靭帯、関節包など関節構造と機能について理解を深める 	<p>膝関節の形態機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床に役立つように膝関節の運動を理解する ・体表上に触って理解できる 	近藤英隆
27	通年	<p>下肢筋学（骨盤筋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下腿部の筋の理解を深める 	<p>骨盤、股関節の形態機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨盤、股関節運動に関わる機能解剖を理解する ・体表上に触って理解できる 	近藤英隆
28	通年	<p>下肢の関節運動学（膝関節）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝関節の運動に関わる筋の機能の理解を深める 	<p>膝関節の形態機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床に役立つように膝関節の運動を理解する ・体表上に触って理解できる 	近藤英隆
29	通年	<p>下肢骨学（足の骨）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足根骨、中足骨、趾骨の骨形態について理解を深める 	<p>足の骨の形態機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足根骨、中足骨、趾骨の骨と足部の構造と機能について理解する ・体表上に触って理解できる 	近藤英隆

30	通年	下肢の関節運動学（足関節） ・足関節の靭帯、関節包など関節構造と機能について理解を深める	足関節の形態機能 ・臨床に役立つように足関節の運動を理解する ・体表上に触って理解できる	近藤英隆
31	通年	下肢の筋学（足の筋） ・足の内在筋の理解を深める	足の筋の形態機能 ・足部アーチに関わる機能解剖を理解する 体表上に触って理解できる	近藤英隆
32	通年	足部の運動学 ・足関節の運動に関わる筋の機能の理解を深める	足部の形態機能 ・臨床に役立つように足関節の運動を理解する ・体表上に触って理解できる	近藤英隆
33	通年	下肢の神経学 ・腰神経叢、仙骨神経叢から末梢に至る神経のつながりについて理解を深める	腰神経叢と仙骨神経叢 ・体表域に神経の走行がイメージできるようにする ・体表上に触って理解できる	近藤英隆
34	通年	試験	試験と解説 ・運動器系(骨格系、筋系、関節・靭帯・筋の支配神経)の理解を試験で確認する	近藤英隆
評価方法	出席点、授業への参加意欲、試験結果を評価とする。 小テスト 20% 定期テスト 80% 総合点数を（100%または 100 点）に換算。			
準備学習など	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として、プリントを配布するので、きちんと保管整理しておくこと。 2. パワーポイントやDVDを使用する。 3. 骨学実習にはスケッチブックを必ず持参すること。 4. 解剖実習見学の日時によっては授業計画が変更されることがある。 5. 当該項目にあたる教科書や配布資料、参考書等を事前に復讐しておく。 			

学科・年次	柔道整復学科 1年次
科目名	臨床実習 I
担当者	近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 秋本幸祐 宮村由紀子 (実習指導者)
単位数 (時間数)	1 単位 (45 時間)
学習方法	学内の附属接骨院又は整形外科・接骨院へ実習に行き、現場の経験を踏む。
教科書・参考書	臨床実習の手引き (東海医療科学専門学校編)

授業概要と目的
<p>講義・演習や実技で学んだ知識や技能をもとに、柔道整復施術所にて豊富な臨床経験を有する柔道整復師の指導・助言を受けながら具体的・個別的に柔道整復術を実践するものであり、一週間にて接骨院又は整形外科を実習地とし柔道整復術に対するニーズを把握すると共に、柔道整復師がどうあるべきかを考察することを目的とする。</p> <p>柔道整復師として整形外科又は接骨院等で臨床経験のある者が、その経験を活かして実習を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1 日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> 接骨院又は整形外科で働く柔道整復師についての理解を深める 接骨院又は整形外科で働く柔道整復師の業務について指導者の下で実施・体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> 接骨院又は整形外科での業務の1日の流れを説明できる。 接骨院又は整形外科での患者に対応する業以外務についても理解し実施することが出来る。 接骨院又は整形外科に来院する患者の病態把握ができる。 接骨院又は整形外科での業務の一部を指導者の指示の下で行うことが出来る。 	近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者
2 日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> 接骨院又は整形外科で働く柔道整復師についての理解を深める 接骨院又は整形外科で働く柔道整復師の業務について指導者の下で実施・体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> 接骨院又は整形外科での業務の1日の流れを説明できる。 接骨院又は整形外科での患者に対応する業以外務についても理解し実施することが出来る。 接骨院又は整形外科に来院する患者の病態把握ができる。 接骨院又は整形外科での業務の一部を指導者の指示の下で行うことが出来る。 	近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者

3日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・接骨院又は整形外科で働く柔道整復師についての理解を深める ・接骨院又は整形外科で働く柔道整復師の業務について指導者の下で実施・体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接骨院又は整形外科での業務の1日の流れを説明できる。 ・接骨院又は整形外科での患者に対応する業以外務についても理解し実施することが出来る。 ・接骨院又は整形外科に来院する患者の病態把握ができる。 ・接骨院又は整形外科での業務の一部を指導者の指示の下で行うことが出来る。 	<p>近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者</p>
4日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・接骨院又は整形外科で働く柔道整復師についての理解を深める ・接骨院又は整形外科で働く柔道整復師の業務について指導者の下で実施・体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接骨院又は整形外科での業務の1日の流れを説明できる。 ・接骨院又は整形外科での患者に対応する業以外務についても理解し実施することが出来る。 ・接骨院又は整形外科に来院する患者の病態把握ができる。 ・接骨院又は整形外科での業務の一部を指導者の指示の下で行うことが出来る。 	<p>近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者</p>
5日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・接骨院又は整形外科で働く柔道整復師についての理解を深める ・接骨院又は整形外科で働く柔道整復師の業務について指導者の下で実施・体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接骨院又は整形外科での業務の1日の流れを説明できる。 ・接骨院又は整形外科での患者に対応する業以外務についても理解し実施することが出来る。 ・接骨院又は整形外科に来院する患者の病態把握ができる。 ・接骨院又は整形外科での業務の一部を指導者の指示の下で行うことが出来る。 	<p>近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者</p>
6日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・接骨院又は整形外科で働く柔道整復師についての理解を深める ・接骨院又は整形外科で働く柔道整復師の業務について指導者の下で実施・体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接骨院又は整形外科での業務の1日の流れを説明できる。 ・接骨院又は整形外科での患者に対応する業以外務についても理解し実施することが出来る。 ・接骨院又は整形外科に来院する患者の病態把握ができる。 ・接骨院又は整形外科での業務の一部を指導者の指示の下で行うことが出来る。 	<p>近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者</p>

成績評価方法	<p>実習毎に課されるレポート・課題及び実習態度により評価する。</p> <p>各実習地先の柔道整復師（実習指導者）より臨床実習で行った内容を元に評価を評価表（実習の手引きに記載）に記入してもらい、各指導者の評価表を合わせて評価する。</p>
準備学習など	<p>実習の手引きを読んでおく。</p>

学科・年次	柔道整復科・1 学年
科目名	臨床実習Ⅱ
担当者	近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 秋本幸祐 宮村由紀子 実習指導者
単位数（時間数）	1 単位（45 時間）
学習方法	デイサービスに実習に行き、現場の経験を踏む。学外臨床実習
教科書・参考書	柔道整復学理論編 柔道整復学実技編（共に南江堂）

授業概要と目的
<p>柔道整復師が機能訓練指導員として活躍している様子を見学実習を行いながら、必要に応じて介護の現場での実技実習を行う。3 日間の臨床実習を 2 施設（デイサービス、リハビリデイサービス交互に行う）行う。</p> <p>柔道整復師として接骨院等で臨床経験のある者が、その経験を活かして実習を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1 日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス 1 施設目 ・デイサービスで機能訓練指導員として働く柔道整復師について理解する 	1. デイサービスの 1 日の流れが説明できる。	近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者
2 日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスで機能訓練指導員として働く柔道整復師について理解する 	1. デイサービスでの個々の業務について説明できる。	近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者
3 日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスで機能訓練指導員として働く柔道整復師について理解する 	1. デイサービスの業務の一部で実技実習を行う。	近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者

4 日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス 2施設目 ・リハビリデイサービスで機能訓練指導員として働く柔道整復師について理解する 	1. リハビリ・デイサービスの1日の流れが説明できる。	近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者
5 日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリデイサービスで機能訓練指導員として働く柔道整復師について理解する 	1. リハビリ・デイサービスでの個々の業務について説明できる。	近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者
6 日目	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリデイサービスで機能訓練指導員として働く柔道整復師について理解する 	1. リハビリデイサービスの業務の一部で実技実習を行う。	近藤英隆 鬼頭宏 北村次郎 若月康次 鈴木雅夕 宮村由紀子 実習指導者
成績評価方法	実習毎に課されるレポート・課題及び実習態度により評価する。 各実習地先の柔道整復師（実習指導者）より臨床実習で行った内容を元に評価を評価表（実習の手引きに記載）に記入してもらい、各指導者の評価表を合わせて評価する。			
準備学習など	実習の手引きを読んでおく。			